週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1978
昭和53年

10|21·28
平成9年10月21·28日合併号発行
(毎週1回発行)第1巻第34号
¥560
講談社

「カラオケ」ブーム始まる!

新実力者・鄧小平が日本で見せた"外交術"

年間自殺者180人を出した「サラ金地獄」

「試験管ベビー」第1号・ルイーズちゃん誕生!

ルーツは神戸・三宮！
いまや国民の半分がマイクを握る
「カラオケ」大ブーム始まる

▼年末、新宿の"歌謡スタジオ"で盛り上がる。ブームが始まった昭和50年代前半は、カラオケ機器のメーカーが乱立し、激しい販売合戦を繰り広げた。 朝日新聞社

神戸・三宮で細々と始まったカラオケが、この年、全国に広がっていく。集魚灯に集まる魚のように、サラリーマンは群をなしてカラオケのあるスナックや居酒屋をめがけ殺到した。全国の盛り場は、この年を境にして、カラオケ・ブームに席巻されることとなる。

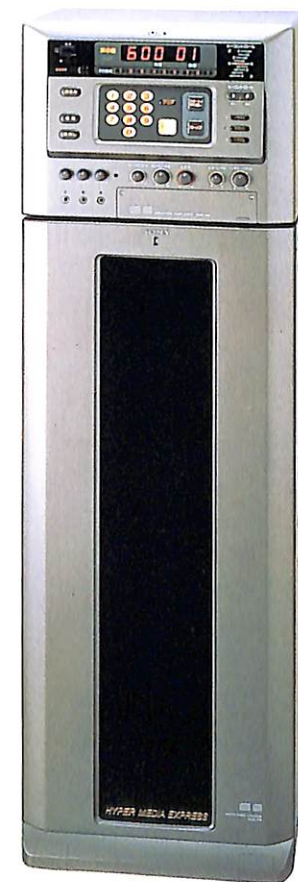
「カラオケ」の張り紙で、知らないお客が次々と

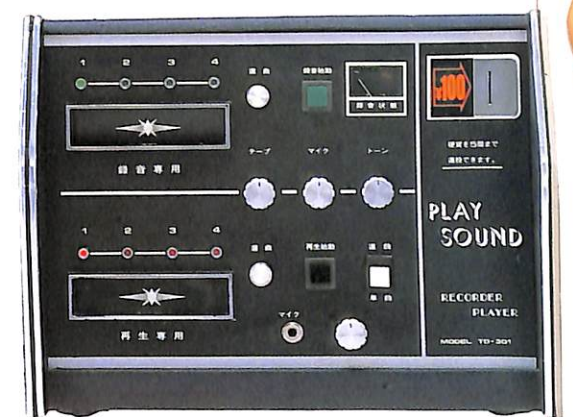
「あれは昭和五三年の春先のことでした。あっちこっちの店に『カラオケ入りました』とか『カラオケあります』という張り紙が出始めて、そのうち一見で店に入ってくる三、四人連れの客がふえてきました。でも、席が空いてるのに『ここ、ないわ、あかん』と言って出ていってしまう。変な客だと思ってたら、カラオケめあての客だったんです」

当時、大阪のミナミでスナックのマスターをしていた花田弘道氏が言う。

花田氏もさっそく店にカラオケを導入した。価格はおぼえていないが、八〇曲か一〇〇曲分のテープがついて、一〇万円もしなかったという。このテープは、レコード吹きこみに使われる伴奏テープと同じもので、「カラオケ」はいわば「歌のない歌謡曲」をさす業界用語であった。

「しかし、びっくりしました。ウチも『カラオケあります』って張り紙を出したら、知らないお客が次々やって来るんです。三割くらい客数がふえましたね。当然酒も売れました。とにかく人が歌っている時はグラスに手が伸びますからね」（花田氏）

▲東京・上野公園で、花見の宴に持ちこまれたカラオケ。昭和53年には、流しの歌手の数が激減した。 毎日新聞社

▲平成元年、レーザーディスクカラオケシステム「ＬＣ－Ｖ50」発売。オートチェンジャーを備え、便利さが人気。
◀平成六年には、ＣＤ動画カラオケシステム「ＣＤＫ－9」が開発された。
第一興商提供（6点とも）

◀昭和五八年、映像が付加されたレーザーディスクカラオケシステム「ＬＤ－Ｖ10」が登場。上は二八曲入りのディスク、ＬＰＣシリーズ。

▲▼昭和52年、8トラックカラオケシステム「プレイサウンドＴＤ－301」の販売が開始された。下は、同時に売り出されたテープ・Ｔシリーズ。歌詞カードは必携だった。

◎表紙　この年、矢沢永吉は初のソロコンサートを開き、翌年自伝的エッセイ『成りあがり』がベストセラーに。 三浦憲治

そしてブームに火がついたこの年、カラオケ機器は全国で一万台を超したと推測されている。

実は、アルサロ、全スト、ノーパン喫茶などと同じように、カラオケも関西が発祥の地である。ただ、我こそがルーツと、主張する人が一人、二人ではない。「カラオケ第一号を作ったのは私です。昭和四五年の五月には、八トラックテープの最初の機械を、神戸、大阪、博多の中洲まで売りに行きました」と言うのは大和音響代表の難波江雄生氏（現・七一歳）だ。

一方、時代的には多少遅くなるが昭和四六年一〇月に、市販の軽音楽テープなどを使っていた難波江氏のものとは違い、独自のカラオケテープを作り、エコーやコインボックスを備えた本格的なカラオケセットを製造したという井上大佑氏（現・五七歳）がいる。

井上氏は、「神戸の三宮のスナックに持ちこみました。正直なところ、最初の三週間はまったく見向きもされなかった。そこで店の女の子にサクラになってもらい、一番を歌わせて、客に二番以降を歌ってもらったんです。そしたら受けたのなんの、すぐにコインボックスがいっぱいになるありさまで、一度マイクを握る経験をした客が、翌日の開店を待ちきれずに早々と繰りこんできた、なんていう例はいくらでもあります」と言う。当時の料金は時間制で、五分間一〇〇円だった。二万五、六〇〇〇円は入るコインボックスがどんどん満杯になり、週に三回集金にまわった店もあったという。

カラオケでともに歌い、失われた共同体を再生

「昭和四〇年代後半に、神戸で始まったカラオケは、口コミで関西一円から博多に飛び火し、関東に出まわり始めたのは昭和五〇年代に入ってから。完全な〝西高東低〟でした」と証言するのはカラオケ専門雑誌「カラオケFAN」編集長の荒内幾雄氏だ。

たしかに関東は出遅れたようで、カラオケ業界トップの第一興商取締役の安井一夫氏は「我々は、カラオケというよりも、かさばるジュークボックスを八トラックテープで安くコンパクトにしようという発想からスタートしました。ですからネーミングも『カラオケ』ではなく、『テープジューク』と言ってました。粗末なマイクもつけていましたが、おまけくらいの気持ちでした。昭和五〇年頃の話です。ところがしばらく様子をうかがっていると、マイクを持って実に気持ちよさそうにしている。それを見てからですね、あっ、お客さんは歌いたがっているんだ、本格的にカラオケ路線に切り換えよう、と思ったのは」と回想する。

こうしたルーツを持つカラオケは、その後爆発的な勢いで国内のみならず、海外にまで広がっていく。そして「カラオケ」は、「ジュードー」「ギョーセイシドー」などと並ぶ国際語にもなった。

また、カラオケハードも、当初のテープ式とは見違えるほどの変化を見せ現在にいたっている。テープが大容量のレーザーディスクやCDになり、動画が加わり、キーの変換もデジタル方式で自在に操作可能となった。そして今や通信カラオケ全盛時代を迎えている。

ルーツは神戸・三宮！ いまや国民の半分がマイクを握る「カラオケ」大ブーム始まる

▶カラオケは爆発的な勢いで広がり、昭和55年頃から東京、大阪ではカラオケ・タクシーまで出現した。 毎日新聞社

カラオケ業界の草創期は、装置が比較的小規模な企業によって製造されていたため、装置の生産台数や販売金額などのまとまった記録はない。しかし、第一興商の売り上げの推移を見ると、昭和五三年当時の売り上げが約一五億円だったのに対し、五八年には四一億円、そしてレーザーディスクが普及した五九年には八七億円に急増し、翌六〇年にはさらに倍増して一六八億円となっている。

こうした過熱するカラオケ・ブームを、東京経済大学の桜井哲夫教授は次のように分析する。

「高度成長期は、地域共同体が解体した時代でした。特にみんなでともに声を出す機会が失われていった。さらにオイル・ショック後の企業のすさまじい合理化・減量策によるストレスが、会社共同体を揺るがせる。カラオケは、そうした共同体を擬似体験させ再生させる場として、圧倒的な支持を得たのでしょう」

現在、カラオケセットは、全国で六四万台が出まわっている。そして、業界の市場規模は一兆二九八〇億円という巨大な金額に膨らむにいたった。平成八年に一度でもカラオケマイクを握ったことのある人は、五七〇〇万人と、実に国民の半数にのぼっているのだ。

カラオケヒット曲の変遷

カラオケの草分け時代のヒット曲は、なんといっても石原裕次郎ナンバーだった。客層が圧倒的に中年以上の男性だけに、彼らの青春時代のシンボルである裕次郎の曲は強かった。中でも「銀座の恋の物語」は今でもランキング上位にあり、「北の旅人」「恋の町札幌」も息長い人気を誇る。デュエット曲では、五木ひろしと木の実ナナの「居酒屋」も定番。フランク永井の「おまえに」「夜霧の第二国道」、村田英雄「無法松の一生」はかつて上位曲の常連だったが、最近は歌う人が減った。「加藤隼戦闘隊」「若鷲の歌」など軍歌も同じく最近では影が薄い。

ここ数年のヒットの特徴はヤングのカラオケ進出と通信カラオケの発達で、その時々のヒット曲がそのままカラオケヒットとなっていることだ。安室奈美恵、華原朋美、Ｐｕｆｆｙ、ミスチル（Mr. Children）、シャ乱Ｑなどの曲が人気上位を占める。

ニューミュージック、ヤングポップス系をのぞくと、平成８年のベストスリーは「天城越え」（石川さゆり）、「捨てられて」（長山洋子）、「時の流れに身をまかせ」（テレサ・テン）といずれも女性歌手の曲が占めている。女性のカラオケ人気の高さを裏付けるかっこうだ。

◀カラオケの海外進出はめざましい。香港のカラオケボックスで。 第一興商提供

▲昭和56年、名古屋市中村区の居酒屋前で、カラオケの騒音度を測定する市職員。 毎日新聞社

気さくさもしたたかさも緩急自在
新幹線に驚き、田中角栄邸を訪問——
鄧小平が日本滞在八日間で見せた〝外交術〟

中国共産党内で失脚と復活を繰り返し、「不死鳥」と呼ばれた異色の政治家・鄧小平。昭和五三年一〇月二二日、毛沢東の死や四人組の失脚を経て三回目の復活をはたした鄧副首相が、日中平和友好条約の批准書交換式に出席するため来日した。この新しい実力者が、日本の土を踏んだ真の狙いとは……。

率直でざっくばらんな〝九億人のナンバーツー〟

「日本も、中国のような貧乏な友達を持ってご迷惑でしょうが、よろしく」

昭和五三年一〇月二三日に行われた第一回首脳会談の後、〝鄧伯々〟（鄧オジサン）はそう福田赳夫首相に話しかけてニヤリと笑った。中国人に〝普段着の政治家〟と親しまれる大物の初来日に、日本中が大騒ぎしていた最中の出来事である。

二二日の午後四時二五分、中国共産党副主席兼副首相の鄧小平（七四）は羽田空港に降り立った。身長一五四チセンの小柄な体に黒の人民服を着た〝九億人のナンバーツー〟を取材しようと、空港には大勢の報道陣が詰めかけた。

東京入りした鄧一行は、総勢四四人。鄧以外にも、廖承志全国人民代表大会常務委員副委員長（七〇）や黄華外交部部長（六五）、韓念竜外務次官（六八）など「中国政府の対日部門がそっくり日本に移動したような陣容」（北京の日本大使館）と、海外訪問では初の夫人同伴という欧米スタイルは、中国側の並々ならぬ意気

▶一〇月二四日には、神奈川県座間市の日産自動車を訪問。大衆車「サニー」の組み立て工程を見学した。

▲10月26日午後、「ひかり」号で関西に向かう鄧副首相。一行が盛りだくさんのスケジュールに追われることになったのは、政界と財界の〝鄧小平争奪戦〟によるものだった。 朝日新聞社（2点とも）

◀田中角栄元首相は、鄧副首相にユキツバキの木を見せ、「中国訪問から帰国した時に植えたものです」と感慨深げに語った。

読売新聞社

ごみを反映しているかのようだった。

滞在した八日間に鄧副首相がこなしたのは、日中平和友好条約批准書交換式典への出席、天皇との会見、福田赳夫首相との会談、衆参両院議長との懇談、日産自動車座間工場などの視察、経済六団体共催の午餐会、名所めぐりと、七四歳の老軀にはかなりハードなスケジュール。

たとえば、天皇会見では「すぎ去ったことは過去のものとして、前向きに両国の平和関係を」と語りかけ、「両国には不幸な出来事もあった」と〝微妙な過去〟に触れた予定外の発言を天皇から引き出した。また、三〇〇人以上が出席した経済六団体共催の午餐会では、土光敏夫経団連会長に産業建設に関する質問をあびせ、「中国は二〇年遅れているから、学ばなければならない。勉強しなければならない」と日本の経済協力を求めている。

一方で、新幹線に乗れば「背後からムチでたたかれ、追いかけられている感じ」と周囲の期待どおりに驚き、視察先の自動車工場では「偉大で勤勉で勇敢で智恵のある日本人民……」とほめそやし、京都での夕食会では日本式に芸妓に返杯してみせる。日本側の〝熱烈歓迎〟にざっくばらんにこたえる鄧の姿に、「率直で、細やかな心づかいができる実力者」と政財界の評価はウナギ昇りだった。

〝異例中の異例〟だった田中角栄元首相訪問

しかし、こうした歓迎の最中、鄧副首相の〝したたかな計算〟を思わせる出来事が起きる。そのひとつが田中角栄元首相邸への訪問だ。昭和四七年に実現した日中国交正常化の立役者とはいえ、当時の田中角栄はロッキード裁判の渦中にいる刑事被告人。それを私邸まで表敬訪問するのは、外交慣例上でも〝異例中の異例〟だった。鄧自身は日中復交時は失脚中で角栄との面識はないが、「飲水不忘掘井人」——水を飲む人は井戸を掘った人を忘れない、というわけである。

一〇月二四日の朝九時一七分、鄧は東京・目白台の田中邸に到着すると、角栄をはじめ、集まっていた二階堂進など四〇人以上の田中派議員と握手、抱擁の後、私邸に入り、一〇分間にわたる会談を行った。終始なごやかな雰囲気で進んだ会談後、歓迎パーティの記念撮影で鄧に近い位置を確保しようと田中派議員が席争いを繰り広げる一幕もあったが、角栄はご満悦で感慨深げだったという。一五分の予定を終えた帰り際、角栄の孫の真奈子ちゃん（三）が「オジちゃん、パンダありがとう」と鄧に話しかけると、何かの思いが心をよぎったのか、角栄は一瞬胸を詰まらせる様子を見せた。

この異例の訪問に、「鄧副首相の信義の厚さは立派」といった賞賛から、「田中邸訪問は中国にとって不適当」などの反対意見、「政界復権の一里塚にしたい田中が北京に働きかけた結果」といった虚々実々の憶測まで飛びかうことになる。

さらに鄧は、福田首相との会見時に緊張関係にあるソ連向けの〝政治ショー〟を意識したのか、「日中が手を結べば何でもできる」と日本人関係者をヒヤッとさせる発言もしてのけた。

気さくさもしたたかさも〝緩急自在〟の老練さを否応なく見せつけて波紋を呼んだ鄧の来日について、アジア経済研究所の真田岩助氏は次のように解説する。

「鄧小平はこの来日で、反ソ連を意識した日中条約の政治利用と国内の工業化の始動という二つのものを得ました。日本の先進技術に刺激を受けて経済特区などの沿海地開発に着手し、日本企業の中国進出がさかんになった。これは現在の改革開放路線にもつながっています。人情と気さくさで政財界の信頼感を得ることによって、政治・経済の両面で大きな収穫をあげた日本訪問は、鄧小平にとって大成功だったといえるでしょうね」

共同通信社

▲条約が発効した10月23日昼すぎ、皇居を訪れ天皇と約10分間歓談。

女たちの肖像

カンヌ映画祭受賞作品「愛の亡霊」で堂々主役 吉行和子の〝演技と文才〟

稲葉真弓

女優には、その人が出ると舞台なり画面がぱっと華やぐタイプと、その人が出ると場面が引き締まる二つのタイプがあるように思われるが、吉行和子はなんといっても後者のタイプ、演技派女優として知られている。その彼女が、堂々たる主役を張り、日本アカデミー賞優秀主演女優賞を獲得したのが、この年カンヌ映画祭で最優秀監督賞を受賞した大島渚監督の映画「愛の亡霊」だった。この時、吉行和子は四二歳、初の主演作品、加えてベッドシーンも話題になり、若手スター全盛の芸能界に〝異変〟を巻き起こしたのである。

「愛の亡霊」は、内容もセンセーショナルだった。四八歳の人妻が、二〇歳の村の青年に強姦同然に犯されたことから愛欲の世界に目覚め、夫殺しに加担、その亡霊に悩まされるというものだが、この作品で彼女は突如、「地でいく魔性の女」とマスコミに書かれたりもした。

昭和一〇年、東京生まれの彼女の父は昭和初期の新感覚派作家として知られる吉行エイスケ、兄は作家の吉行淳之介、妹は詩人・作家の吉行理恵、母は話題となったNHK朝の連続ドラマ「あぐり」の主人公・吉行あぐりと芸術家一族だが、彼女自身は子どもの頃から内気で恥ずかしがり屋、喘息の持病もあり人前に出ると喋れなくなるほどナイーブな少女だった。

◀昭和48年には、「焼跡の女侠」（立動舎）の演技によって、紀伊国屋演劇賞を受賞している。

そんな彼女が芝居に目覚めたのは、女子学院中学の時。「劇団民芸」の芝居を見て感動した彼女は、裏方でもいい、舞台にかかわりたいと、女子学院高校卒業と同時に劇団民芸水品演劇研究所に入所。昭和三一年「アンネの日記」で主役を演じ注目された。三四年、日活と契約、全盛時代の日活映画を脇の演技で支えた。私生活では民芸のスタッフと三八年に結婚、しかしこの結婚は四年で破局した。一度もごはんを炊いたことのない暮らしから「結婚には向かない、孤独と不安の中で仕事をすることが自分の道」と悟っての離婚だった。

昭和四四年には民芸を退団、演出家の鈴木忠志、唐十郎のアングラ芝居に出演した後、「荒海の方が面白い」と一人芝居「MITSUKO」にも挑戦。一方で、文才も発揮し、エッセイ『どこまで演れば気がすむの』で、昭和五九年日本エッセイスト・クラブ賞を受賞、最近も日本画家・堀文子と画文集『楽園幻想』を発表するなど、女優の枠だけにはまらない活躍をしている。

勝者・敗者

二時間一〇分を破る快走！ 宗茂、弟の猛を従えてマラソン〝黄金時代〟を開く

阿部珠樹

別府大分毎日マラソンは、若いランナーの「登竜門」と言われる。コースはほとんどが平坦で、海からの風がなければ、好記録が望めるレースでもある。

この年、二月五日の「別大」は、薄曇り、気温一〇度前後と絶好の条件に恵まれていた。好条件を受けて、レースは前半からハイペースで展開する。伊藤国光、鎌田俊明らの若い日本人ランナーが五キロのラップ一四分台の速いペースで集団を引っ張っていく。だが、三〇キロ手前でトップに躍り出たのは、三ヵ月前の福岡国際マラソンで五三人中五二位という屈辱的な成績に終わった宗茂（二五）だった。二三歳でモントリオール五輪の代表になった宗だが、この大会の直前は不調で、下馬評にはほとんどあがっていなかった。

三〇キロをすぎて独走に入った宗に、今度は風が襲いかかる。三・五メートルの向かい風が容赦なく吹きつける。しかしペースは落ちない。長身から繰り出す大きなストライドがデレク・クレイトンの持つ二時間八分三三秒の世界最高記録を更新するラップを刻む。沿道には興奮が広がった。

結局四〇キロをすぎて大きくペースダウンしたことと、競り合う相手がいなかったことで、ゴールのタイムは二時間九分五秒にまで落ちたが、それでも、日本人としては、史上初めて二時間一〇分の壁を破る快走だった。二位には三分四〇秒ほど遅れ、双子の弟、宗猛が入った。兄弟でのワンツー・フィニッシュだった。

「一時は二時間六分台までいくかとも思ったが、三〇キロすぎてからの一キロ、一キロはきつくて、とても長く感じた。勝ったこともうれしいけれど、弟が二位に入ったのもうれしい」

宗はゴールすると一気にまくしたてた。この宗兄弟と、この年一二月の福岡国際マラソンで頭角を現す瀬古利彦（二二）の三人が、昭和五〇年代から六〇年代前半にかけての日本マラソンの黄金時代を形成していったことは、あらためて強調するまでもない。

▶「別大」でゴールする宗茂。デビュー戦もワンツー・フィニッシュ。

時事通信社

ニュース・ファイル 1978

フォト＋日録で再現する365日

ガルブレイス著『不確実性の時代』がベストセラーになった。日本経済は石油危機から回復、円高が急速に進み、子どもたちがピンク・レディーの「UFO」に夢中になっている一方で、先行きの読めない不安は経済・政治・社会全般におよんでいた。

◀古代の運搬用そり「修羅」発掘(4月)大阪・藤井寺市の仲津媛陵古墳から大小二つ。木製で大きいものは長さ8.8、幅2.2メートル。9月には520人の引き手で復元修羅を実験、60トンまで積むことができた。

毎日新聞社

共同通信社

▶制服警官、女子大生を暴行殺人(1月10日)東京の北沢署巡査が巡回連絡を利用してアパートに侵入。犯行後第一発見者をよそおったが、殺害を自供した。写真は全署員に見送られる遺体。土田警視総監が引責辞任した。

毎日新聞社

◀香港風邪・ソ連風邪荒れ狂う(1月25日)前年末から香港型が流行していたが、1月にはソ連風邪も上陸した。ワクチンの準備が少なかったため予防はうがいだけ(写真)。3月には297万人におよんだ。

▶伊豆大島近海地震(1月14日)M7.0で死者25人、家屋全半壊712棟を数えた。写真は河津町で土砂から掘り出されたバス。強い余震が続き、対策本部の余震情報がかえってパニックをあおった。

共同通信社

ロイター・サン／共同通信社

◀ニューヨーク、大雪でマヒ(1月)26日から27日に東部などで70人もの死者を出し、道路は寸断され、都市機能が停止。2月になっても降り続いた。写真はノーザン大通りで立ち往生する車。

▼札幌のロックコンサートで死者(1月27日)英国のロックグループ「レインボー」登場直後に観客が押し合い、女子短大生一人が圧死、8人が重軽傷を負った。

共同通信社

共同通信社

▲トヨタ、ラグビー日本一(1月15日)東京の国立競技場で第15回選手権大会が行われ、学生代表の明大を後半逆転し、20対10で9年ぶり2度目の全国制覇を達成した。

昭和53年1月

1(日)●東京のアパートで過激派が製造中の爆弾暴発。
2(月)●出水市の越冬ツル、最高の四四三〇羽確認。
3(火)●オーストラリア国立大学で日本語講座開講。
4(水)●共産党、前副委員長・袴田里見の除名を発表。
5(木)●千代田区の人口、昼は夜の一五倍と総理府。
6(金)●同じメーカーが発売した三万余個のスーツケース全部が、同一の鍵で開くと神戸市が発表。
7(土)●WHOが天然痘の根絶を宣言した、と新聞に。
8(日)●私学振興財団、医歯系倍増の奨学制要項発表。
9(月)●全国銀行協会、前年の貸し出しが二三年ぶり一桁の伸び率(八・五％)に減少と発表。
10(火)●東京の下北沢で制服警官が女子大生のアパートに侵入し暴行殺害(2月25日警視総監辞任)。
●初の『婦人白書』。賃金は男子の五五・八％。
11(水)●ソ連の「ソユーズ26号・27号」と「サリュート6号」が初の宇宙三連結。四飛行士が合流。
12(木)●TBS、歌謡番組「ザ・ベストテン」スタート。
13(金)●郵政相、自動車電話の来夏からの開始を指示。
14(土)●伊豆地方でM7の地震発生。二五人死亡。
15(日)●下田市、前日の地震で取り残された観光客一二三四人を、巡視船などで熱海港へ海上輸送。
16(月)●関西の一五銀行が年一八億円を総会屋に支出。
17(火)●革マル派、東京でNHKの電波ジャック。
18(水)●東富士演習場で米軍大型ヘリ墜落。四人死亡。
19(木)●フォルクスワーゲン社、乗用車「ビートル」(カブト虫)の西独国内生産を打ち切り。
20(金)●鉄鋼大手各社、数万人の一時帰休実施を表明。
21(土)●自民党旧田中派が政治団体結成。派閥復活へ。
22(日)●テンポイント、日経新春杯で左後脚を骨折。
23(月)●大蔵省、前年の国際収支は一一億一二〇〇万ドルの黒字と発表。過去最高の四七年の二倍。
24(火)●警視庁、大地震発生時の避難所を東京二三区内に二九九八カ所設定。
25(水)●前年の映画観客数は過去最低の一億六五〇〇万人(33年の一五％)と映画製作者連盟発表。
26(木)●最高裁、選挙のウグイス嬢報酬は買収と判断。
27(金)●大津市で巨大な柱跡一〇個発掘(2月9日滋賀県教委、大津京の宮殿跡と発表)。
28(土)●国際刑事機構、前年九月に日本赤軍が「奪還」した大道寺あや子ら五人を国際手配と通告。
29(日)●タバコが小学五年生にも拡大と教研集会報告。
30(月)●大久保利春元丸紅専務、ロッキード事件公判で加藤六月ら六人の「灰色高官」名を公表。
31(火)●初の鍼灸校、明治鍼灸短大新設を文相に答申。

▲地下鉄東西線、強風で横転(2月28日)東京の南砂町―葛西間の荒川中川鉄橋を走行中、40メートルを超す春一番に強襲され後部2両が横転。21人が重軽傷を負った。

共同通信社

▲米空母「ミッドウェー」、横須賀に入港(2月21日)クレーター海軍長官が7日「核攻撃用航空機の母艦」と発言したばかり。甲板にはF4ファントムなど核装備可能な艦載機が並んだ。

毎日新聞社

▶「嫌煙権確立をめざす人びとの会」結成(2月18日)デザイナーの中田みどり(中央)を発起人に全国から60人が参加。喫煙しない人の権利を主張して、広く禁煙を訴えた。

時事通信社

日刊スポーツ

▲「フォークの神様」ボブ・ディラン来日(2月17日)1960年代に反戦歌「風に吹かれて」などをヒットさせた米歌手。20日から東京、大阪などで公演した。

共同通信社

◀永大産業倒産(2月20日)プレハブ住宅で急成長したが、拡大路線の無理がたたり破綻。1800億円の負債は50年の興人を上回る。写真は東証の売買停止の掲示。

共同通信社

▲イルカ撲殺に抗議殺到(2月23日)長崎県壱岐でハマチやマグロを食い荒らすイルカ1000頭を、漁民が海岸に追いこみ撲殺(写真)。これに各国から非難の声が殺到した。

昭和53年2月

1(水)●東京消防庁、たらいまわし防止に救急オンラインシステムを一〇病院に導入。
2(木)●ココム、日立に大型電算機の中国輸出を認可。
3(金)●東京の浅草寺、経費節減に節分の豆を三割減。
4(土)●日本初の北極圏オーロラ観測衛星打ち上げ。
5(日)●宗茂、別大毎日マラソンで二時間九分五秒の世界歴代二位の記録を出し優勝。
6(月)●労働省、日本鋼管福山製鉄所に一九五三万一七九一時間無災害世界最長記録の認定証授与。
7(火)●日本共同捕鯨、母船二隻のスクラップ処分決定。日本の捕鯨母船は同社保有の一隻のみに。
8(水)●京都の六波羅蜜寺で空也踊躍念仏を初公開。
9(木)●福岡地裁、未熟児網膜症による失明事故(44年)で、医師は無過失と賠償請求棄却。
10(金)●石川島播磨重工、船上でパルプを製造するプラント船完成(5月4日ブラジルに到着)。
11(土)●総理府、建国記念日奉祝式典を初めて後援。
12(日)●文部省が海外邦人の子ども向け派遣教員の給与全額負担など対策に本腰、と新聞に。
13(月)●静岡県舞阪町の東大水産試験所で、世界初の餌付けに成功したウナギが管理不手際で全滅。
14(火)●鳥羽水族館でジュゴン人工飼育日数が二七一日の世界記録(昭和60年6月死亡)。
●鹿児島市の久保武雄、史上最年少の一五歳で司法試験第一次試験に合格。
15(水)●東京駅、車椅子専用待合室を開設。
16(木)●総額二〇〇億ドルの日中長期貿易取り決め調印。
17(金)●「フォークの神様」ボブ・ディランが初来日。
18(土)●「嫌煙権確立をめざす人びとの会」結成。
19(日)●富士市・盛岡市・鹿児島県などで母親による乳幼児殺人が四件発生、七人死亡。
20(月)●永大産業、倒産。負債総額一八〇〇億円。
●ガルブレイス著『不確実性の時代』刊行。
21(火)●米軍嘉手納基地司令官が沖縄で核訓練と言明。
22(水)●パチンコ貸し玉料を三円から四円に値上げ。
23(木)●長崎県壱岐で、漁業被害対策に漁船六〇〇隻動員し、イルカ一〇〇〇頭を撲殺。
24(金)●大阪地裁、放射線被曝したアルバイトの高校生への慰謝料支払いを会社に命令。
25(土)●スピルバーグ監督「未知との遭遇」封切。
26(日)●明治神宮外苑審判協会に初の女性審判員誕生。
27(月)●住宅公団、家賃値上げ発表。最高七〇〇〇円。
28(火)●春一番が関東強襲。東京・江戸川区の鉄橋で地下鉄東西線が脱線転覆し二一人重軽傷。

毎日新聞社

◀過激派ゲリラ、成田管制塔を占拠(3月26日)成田空港開港反対で、厳戒態勢の中、10人が管制室に侵入、機器類を破壊・占拠した。屋上に逃れた管制官はヘリコプターで救出された(写真)。政府は30日の開港を断念、5月20日に延期した。

共同通信社

▲ミス・ユニバース代表に萬田久子(3月22日)全国8地区24人の候補者の中から栄冠を獲得(写真中央)。19歳、大阪の帝塚山短大生だった。翌々年にはNHK朝の連続テレビドラマ「なっちゃんの写真館」に出演、女優の道を歩むことになった。

▼原油22万トンが流出(3月16日)ブルターニュ半島沖でリベリア船籍の超大型タンカー「アモコ・カジス号」が座礁。フランス北西部の美しい海岸線は黒い原油でおおわれた。

ロイター/サンテレフォト

朝日新聞社

▲タイ女性9人を保護(3月6日)マンション隣室に逃げこんできた女性の訴えから、兵庫県伊丹署は監禁されていた残り8人を救出。大阪のクラブなどで働く20歳から26歳の女性たちで、売春を強要されていた。

▼甲子園で初の完全試合(3月30日)春の選抜高校野球4日目、前橋高校の松本稔投手が滋賀県の比叡山高校との対戦で達成した。春夏を通じて初めて。投球数はわずか78球だった。

時事通信社

▲東京教育大が閉学(3月15日)文京区の同大講堂で式典が行われ、明治5年(1872)日本初の師範学校として出発、東京高等師範・東京文理大を経て106年の歴史を閉じた。4月から筑波大へ移管された。

昭和53年3月

1(水)●金沢地裁、初のスモン裁判である北陸スモン訴訟で、国などの責任を認め原告勝訴の判決。
2(木)●女性専用ホテル「レディースイン宝塚」開業。
3(金)●日米犯罪人引き渡し条約全面改正調印。対象罪種を一五から四七に大幅拡大。
4(土)●蜷川京都府知事、八選には出馬せずと表明。
5(日)●兵庫県小野市で住宅ローン苦に一家五人心中。
6(月)●パリに続きロンドン、ローマに出店と松坂屋。
7(火)●米韓合同演習チームスピリット'78開始。
8(水)●大蔵省、サラ金融資の自粛を銀行協会に要請。
9(木)●ルイ・ヴィトン、デパート五店で販売開始。
10(金)●福岡地裁、カネミ訴訟でカネミ倉庫・鐘淵化学に六〇億円の賠償支払いを命令。
11(土)●「地名を守る会」が設立総会。代表・谷川健一。
12(日)●東京・高島平団地で産直野菜の青空市開く。
13(月)●拾ったキャッシュカードで一五〇万円を現金化した山形銀行新庄支店幹部が逮捕される。
14(火)●警視庁、子どもの自殺防止一〇則を公表。自殺のサインを見落とすな、親は常に聞き役、など。
15(水)●一〇六年の歴史持つ東京教育大が閉学式挙行。
16(木)●伊の「赤い旅団」、モロ前首相を誘拐(政府は交渉拒否。5月9日遺体で発見)。
17(金)●真宗大谷派の内紛で管長側が宗務総長を破門(27日改革派が大谷法主の管長職解任)。
18(土)●東京・原宿にブティック「竹の子」開店。
19(日)●環境庁、具体的解決策求め二四日間庁内に座りこみの水俣病患者ら八〇人を強制排除。
20(月)●初の国産原子炉「ふげん」が臨界に達する。
21(火)●世界最大客船「Q・エリザベスⅡ世号」横浜へ。
22(水)●一人当たり貯蓄で日本はスイスに次ぎ二位。
23(木)●住宅事情悪化で都外転出が二四万人と都調査。
24(金)●静岡労基局、第一勧銀に男女賃金の是正勧告。
25(土)●「男のための育児大学」開催。応募倍率三四倍。
26(日)●厳戒下の成田空港で反対派ゲリラが管制塔に突入、機器類を破壊(28日開港延期を決定)。
27(月)●日本漁船団が二〇〇カイリ漁業専管水域の実施間近のニュージーランド沖から総撤退を開始。
28(火)●グアム島観光中の日本人保母ら三人が強盗に撃たれ二人死亡、一人重体。
29(水)●一八〇億円分の覚醒剤など摘発と『密輸白書』。
30(木)●前橋高の松本稔投手、選抜高校野球の対比叡山高戦で春夏通じ初の完全試合達成。
31(金)●国鉄常磐線・地下鉄千代田線・小田急線の三線直通運転開始。

読売新聞社

▲**VAN倒産（4月6日）**昭和30～40年代に「アイビールック」で一世を風靡したが、51年頃から競争激化とヒット商品が出ないことで経営悪化。負債はアパレル界空前の500億円。写真は会見する佐脇鷹平社長（左）と創業者の石津謙介会長。

◀**植村直己、北極点に立つ（4月30日）**犬ぞり単独行では世界初の快挙。3月5日にカナダ最北端を17頭立ての「オーロラ号」で出発、目標達成は56日目だった。植村（37）は8月、さらに世界初のグリーンランド縦断にも成功した。

文藝春秋提供

共同通信社

▲**ソ連、大韓航空機を銃撃（4月21日）**領空侵犯と判断、北極圏に近いカレリアの氷湖上に強制着陸させた。写真は日本人一人を含む二人の遺体と乗客らを収容、ヘルシンキに着いた救援機。

◀**酸素補給なしで世界初のエベレスト登頂（5月8日）**オーストリア隊二人が、早朝6時に第4キャンプ出発、正午に登頂成功。写真は頂上でのメスナー（34）。

オリオンプレス

朝日新聞社

▲**自殺防止に懸命の東京・高島平団地（4月）**19日に若い男が28人目となる飛び降り。住宅公団では手すりに有刺鉄線を張ったが効果なく、写真のように通路を鉄柵で囲う工事を開始、6月完成した。

◀**日本一ののっぽビル「サンシャイン60」完成（4月5日）**東京・池袋の巣鴨刑務所跡地に完成、地上60階。新宿に対抗する池袋副都心化の象徴とされた。

共同通信社

昭和53年4月

1（土）●藤間流家元・尾上松緑、二億数千万円申告漏れ。
2（日）●宮中晩餐会に伝統破り日本酒加わると新聞に。
3（月）●英国議会初のラジオ中継（申請以来五〇年目）。
4（火）●キャンディーズ、後楽園で解散コンサート。
5（水）●東京池袋に超高層ビル「サンシャイン60」竣工。
6（木）●VANジャケット、倒産。
●日本アカデミー賞第一回授賞式。作品賞は山田洋次監督の「幸福の黄色いハンカチ」。
7（金）●カーター大統領、中性子爆弾の生産延期発表。
8（土）●日本初の実験放送衛星「ゆり」、米ケープカナベラルから打ち上げに成功。
9（日）●京都府知事に林田悠紀夫。二九年ぶり保守へ。
10（月）●中央大、八王子市に移転後初の入学式を挙行（多摩地区への大学の移転相次ぐ）。
11（火）●日本のイルカ捕殺数は米の四分の一と水産庁。
12（水）●米の核実験場ビキニ環礁で住民から放射能検出。米政府、住民の島外強制移住を命令。
13（木）●国際エネルギー機関、代替エネルギー開発努力の不足などを指摘する対日勧告を発表。
14（金）●警視庁、銀行に総会屋賛助金二割削減を要請。
15（土）●慶大、帰国子女に筆記免除など新入試制発表。
16（日）●多摩湖畔で日本初の女性フルマラソン大会。
17（月）●新潟県、阿賀野川の水銀汚染に安全宣言。
18（火）●三井物産、米クック社の施設を一二〇億円で買収と発表。米穀物市場へ本格参入。
19（水）●電電公社、世界最大容量の読み出し専用超LSI（大規模集積回路）の開発に成功と発表。
20（木）●軟式野球連盟、小学生の変化球投球を禁止。
21（金）●大韓航空機、北極圏でソ連の領空侵犯し強制着陸。ソ連機銃撃で日本人含む二人死傷。
22（土）●英王立オペラ座が日本企業に改修費寄付要請。
23（日）●南シナ海でベトナム難民五五人を救助した日本漁船が鹿児島港に入港。
24（月）●S・マックイーン、写真無断使用の松下電器などへの肖像権侵害訴訟で東京地裁に初出廷。
25（火）●伊方原発設置取り消し訴訟で住民全面敗訴。
26（水）●政府、身元引受人を条件にベトナム難民の定住認可と方針決定。
27（木）●日大北極点遠征隊、日本で初の北極点到達（30日植村直己が犬ぞりで単独到達）。
●アフガニスタンでソ連派の軍事クーデター。
28（金）●欧州の結婚情報会社アルトマン日本支社開設。
29（土）●リサイクル運動市民の会、おもちゃ市を開催。
30（日）●赤川次郎著『三毛猫ホームズの推理』刊行。

証言・あの日この日
江藤 淳（44）

4月9日（日）〈例年のように、この通称〝土手公園〟の桜を愛でに出かけました。あたたかい日で、気温は午前中に摂氏二五度にまで上り、午後下ったといっても二三度半という高さ〉（江藤淳『再々こもんせんす』）

この年は例年に比べて桜の開花が1週間以上も遅かった。〝土手公園〟というのは、江藤淳の住むマンション近くの四谷見附から靖国神社にいたる麴町側の土手のことである。前年までは、人が散歩しながら花を眺めて行くだけの「ごく地味なお花見」だったのだが、この年からは違った。〈あっちこっちにおでんの屋台が出ている。そのそばには毛せんやゴザを敷いて、車座になって酒を汲み交し、ギターをかき鳴らし、あるいは民謡をうたいというような人々の席が設けられている〉。不景気なせいなのだろうか、と江藤淳は推測する。（坪内祐三）

ジャーニ・ジャンサンティ（AP）／WWP

▲**イタリアのモロ前首相、射殺体で発見（5月9日）**過激派「赤い旅団」による獄中メンバーとの交換要求を政府が拒否、安否が気づかわれていた。遺族は政府に反発、遺体のない国葬という異常事態に。

▶**「福岡砂漠」悪化（5月）**この月、降雨が平年の3割に達しない史上最悪の異常渇水。20日から給水制限、6月1日に1日5時間となり、翌年3月まで不如意が続いた。写真は26日、給水を待つ市民。

西日本新聞社

▼**勝新太郎（46）、アヘン所持で書類送検（5月25日）**翌日に開かれた謝罪会見で150人の報道陣を前に頭を下げたが、テレビ局は主演の「新・座頭市」と「痛快・河内山宗俊」の放映を自粛した。

共同通信社

朝日新聞社

▲**成田空港開港（5月20日）**機動隊員1万4000人出動の厳戒態勢下、ターミナルビルで開港式典を挙行。翌21日、ついに1番機が滑走路に着陸、運行が開始された。

▼**国連で原爆写真展（5月23日）**国連初の軍縮特別総会開催中のニューヨーク本部ロビーに広島、長崎の写真59点を展示。一度は残虐すぎるとはずされた5点も展示された。

共同通信社

昭和53年5月

1（月）●厚生省、国立医療施設に待合室禁煙を指示。
2（火）●岡原最高裁長官、弁護人抜き裁判法案は必要と異例の見解を発表（8日社共が罷免請求）。
3（水）●東京の公害病患者が二万人超え全国最悪。
4（木）●札幌労基署、菓子職人の虫歯を職業病に認定。
5（金）●京成電鉄の空港特急四両が放火で全半焼。
6（土）●文化大革命で地方に下放させられた科学技術者を早急に呼び戻せと「人民日報」。
7（日）●借金が必要な職員を救済するため自治体自身の「サラ金」開業がふえる、と新聞に。
8（月）●オーストリア隊の二隊員、初の無酸素でのエベレスト登頂に成功。
9（火）●日航、リニアモーター推進の八人乗り「HSST二号」機の有人試乗走行を行う。
10（水）●拓殖大応援団合宿でのしごき（3日）により新入部員が死亡、七人逮捕（12日応援団廃部）。
11（木）●歌手の安西マリアが所属プロの社長に恐喝され失踪と判明、社長逮捕。
12（金）●高見山、横綱輪島破り史上最多の金星一一個。
13（土）●給食用先割れスプーン追放が始まると新聞に。
14（日）●山口県豊北町町長選で原発反対派候補が当選。
15（月）●IOC、野球を公認競技と決定。
16（火）●経企庁、マンション問題で管理組合設置の義務化、施工者に一〇年の補修責任などを提言。
17（水）●エルサルバドルで武装四人組が合弁会社社長の松本不二雄を誘拐（10月4日遺体で発見）。
18（木）●妙高高原で地滑り。一三人死亡、一二棟損壊。
19（金）●戦前の発禁本一八四点が米国から返還される。
20（土）●新東京国際空港（成田空港）開港。
21（日）●警視庁、俳優・川口恒ら五人を大麻容疑で逮捕。
●日本けん玉協会杯争奪戦開催。初の全国大会。
22（月）●若三杉（後に若乃花と改名）横綱に決定。
23（火）●初の国連軍縮特別総会開催。一四五カ国参加。
24（水）●落語協会を真打ち乱造と批判して脱会した三遊亭円生ら五〇人が、落語三遊協会を設立。
25（木）●勝新太郎、アヘン所持容疑で書類送検される。
26（金）●緒方貞子、日本人初のユニセフ議長に決定。
27（土）●網代湾で旧海軍特殊潜航艇「海龍」引揚げ。
28（日）●大阪・奈良県境で『日本書紀』記載の一三〇〇年前の山城「高安城」の遺構発見。
29（月）●松山地裁、愛媛県長浜町の漁港建設差し止め請求訴訟で、入浜権を否定し請求棄却。
30（火）●大島渚監督「愛の亡霊」がカンヌ映画祭監督賞。
31（水）●横浜市、大阪市の人口抜き全国二位と発表。

共同通信社

▲ブラジルで日本人移民70周年式典(6月18日)サンパウロ市のパカエンブ競技場に日系人9万人が集合。明治時代「笠戸丸」出港に始まった苦難の歴史をたたえ合い、皇太子ご夫妻のお言葉に涙する1世たちも。

読売新聞社

▲落語三遊協会、旗揚げ(6月14日)落語協会の「真打ち乱造」に反旗をひるがえした三遊亭円生らが、東京の本牧亭で初公演、満員札止めとなった。

共同通信社

◀ソ連の「ソユーズ29号」出発(6月15日)宇宙基地「サリュート6号」と結合、コワレノク船長(左)ら二人は140日間宇宙滞在の新記録を達成。

▼宮城県沖地震起こる(6月12日)M7.4を記録。仙台市の新興開発地に被害が集中、28人が死亡した。ブロック塀の倒壊による死者が多く注目された。写真は崩壊したガスタンク。

WWP

▲ベルサイユ宮殿爆破(6月26日)衝撃で「戦争の間」「皇帝の間」などがメチャメチャ。帝政時代の絵画など被害額2億5000万円に。ブルターニュ国家主義者の犯行だった。

▶波力発電実用化へ(6月25日)石川島播磨重工と海洋科学技術センターが船型の実験装置「海明」を公開。波の力でタービンを動かして最大2000キロワットを発電した。

共同通信社

読売新聞社

昭和53年6月

1(木)●異常渇水続く福岡市で一日五時間給水実施。●航空三社、国内線に禁煙席を設置。

2(金)●国公立大のオーバードクター(博士浪人)が不況による就職難などで五年で倍増、と新聞に。

3(土)●佐世保市議会、原子炉封印方式による佐世保港での「むつ」修理を議決。

4(日)●前年ニュージーランド沖で大洋漁業が捕獲した「怪獣」は、ウバザメと東京医歯大発表。

5(月)●神奈川県警、歩行者を轢き殺した数を競う「殺人ゲーム機」製造業者ら四人を逮捕。

6(火)●騒音被害者の会が「騒音一一〇番」開設。

7(水)●名古屋市など一九八八年五輪の誘致を決議。

8(木)●横浜市交通局、サラ金の車内広告禁止を決定。

9(金)●関東大震災級の地震で、予想死者は三万五六〇〇人と東京都防災会議が報告書発表。

10(土)●仙台市、東北初の地下鉄建設申請を提出。

11(日)●百円玩具の自販機ガチャンコが急増と新聞に。

12(月)●宮城県沖地震。M七・四、二八人死亡。

13(火)●水質汚濁防止法改正施行。初の総量規制へ。

14(水)●落語協会脱退の三遊亭円生一門が旗揚げ公演。

15(木)●小澤征爾、北京で中国中央楽団を指揮。ブラームス「交響曲二番」など。

16(金)●塩尻市でカラオケへのヤジから殺人事件発生。

17(土)●厚生省、パーキンソン病治療の公費負担決定。

18(日)●福島市の第一回市民マラソン大会で三十数人が日射病で倒れる(20日二人死亡)。

19(月)●事務機械工業会、複写機の出荷大幅増でオフィスは電卓から複写機時代に入ったと発表。

20(火)●日航、ブラジルとの協定一六年目で初就航。

21(水)●防衛庁、有事の際の作戦研究に着手と表明。

22(木)●日韓大陸棚協定の批准書交換し協定発効。

23(金)●東京地裁、四六、七年製作の日活ロマンポルノは猥褻ではないと映倫審査員に無罪判決。

24(土)●G・ルーカス監督の映画「スター・ウォーズ」封切(初めて一般入場料が一五〇〇円に)。

25(日)●石川島播磨など、波力発電装置「海明」を公開。

26(月)●全日空、ボーイング社から航空機一〇機購入。

27(火)●最高裁、「火の国」差し止め訴訟で同名称は熊本の代名詞と、火の国観光ホテルの上告棄却。

28(水)●青森県で原因不明のリンゴ落果が続き、五万トン、被害総額六〇億円を超える。

29(木)●経営危機の佐世保重工業社長に坪内寿夫就任。

30(金)●東京バス協会、車椅子の路線バス乗車を認める(7月5日実施)。

20世紀博物館 現代ガラスの博物館

"工業製品"として生活を支えるガラスとの出会いの場

東京・港区

桑原茂夫

◀ガラスの立体玩具。ガラスの細工しやすさを利用して複雑な形にしたガラス片を、瓶の中に納める。

乙咩雅一

ガラスの博物館と言うと、グラスやボトルなどのガラス工芸品が並んでいる光景を思い浮かべる。実際、そのような博物館は全国に少なからずある。ところが、この「現代ガラスの博物館」は、日本硝子製品工業会が中心となって設立しただけあって、工業製品としてのガラスをメインテーマにしている。

一三〇平方メートルほどの狭いスペースに、ガラス工業の関係六団体(板硝子協会、日本ガラスびん協会、ニューガラスフォーラムなど)が、それぞれ小さなブースを持って、競い合うように、ガラスの特徴を生かした製品を展示している。

たとえば、自動車のフロントガラスに用いられる強化ガラス。新しく開発された製品として、板ガラスの間に柔らかいプラスチックをはさみこんで衝撃を吸収するタイプのものが展示されている。衝撃を受けた時、きれいにひびが入る様子が示されており、砕けた際に一時的に視野をさえぎるタイプのものより、さらに高い安全性を獲得したことがわかる。

また、ガラス瓶のブースでは、おなじみのビール瓶や一升瓶が、何度でもリサイクルできる高性能の容器であることが、具体的に示されている。そして同じブースに、高級感や個性を強調する香水の瓶が展示されている。それぞれのブランドに特有のデザインは、ガラスならではの繊細なもの。しかし、香水がガラス瓶に入れられるのは、お洒落のためだけではなかった。ガラスは香りの成分を変質させないからで、ガラスという素材が化学的に安定した物質であることをフルに生かしているわけだ。

▼1853年に初代のゲランが作り、いまだに名香とされているオーデコロン"インペリアル"。凝ったデザインのボトルだ。

さらに、ガラス繊維のブースもある。断熱材として用いられるグラスウールもガラス繊維のひとつだが、意外と身近に用いられているのがFRP(繊維強化樹脂)であることがわかる。FRPはガラス繊維をプラスチックで固めたもので、新幹線やボートのボディやバスタブなどに用いられる軽くて強い素材なのだ。

別のブースでは、ガラスが実はコンピュータ社会になくてはならない物質であることを実感させられることになる。ここには、光ファイバーやICフォトマスクなどが並べられているのだ。これらは"ニューガラス"と称されるとおり、ガラスのイメージを大きく広げてきた。

光ファイバーは、光の通路にガラスを用いた通信素材で、これによってデジタル情報を大量に、しかも遠くまで確実に伝送できるようになった。コンピュータ社会を支えるガラス製品なのだ。

ICフォトマスクもコンピュータ製造になくてはならないもので、ガラスの持つ透過性や、安定した平面、精密な加工ができる性質などを活用している。

ガラス大いに見直すべし。地球に無限に(と思われている)存在する石英や石灰石から生まれたガラスは、いろいろなものに姿を変え、再び地球に還って行く。まるで生きもののようだ。地味だがそんなことを感じさせる博物館であった。

▲光ファイバーの展示。こんな線が大量の情報を伝送するのかと、不思議な感じがする。

▼館内の様子。手前はダイヤモンド・ポイントを使ってガラスを削り、模様をつける"ギヤマン彫り"の実習コーナー。館長の上松敏明さん自身も楽しんでいる。

●現代ガラスの博物館
東京都港区新橋三―一―九 日本ガラス工業センター一階
☎〇三―三五九一―六〇一六
JR新橋駅下車、徒歩七分
開館時間=一〇時~一七時
休館日=日曜日、祝日、年末年始
入館料=無料

ベストセラー
『頭のいい税金の本』が説く新時代に対応するハウツー

参議院議員・大蔵委員の肩書で野末陳平が『頭のいい税金の本』を書き、ベストセラーになった。減税の時代から大増税へ、大きく変わる時代の流れに、現実的にどう対応したらいいかを、計算式なども入れながらわかりやすく説いた、これまでにない税金のハウツー本だった。

赤ちゃんが産まれた時、病気で治療を受けたり入院したりした時、マイホームを取得した時、途中退職した時など、サラリーマンには身近なケースを取り上げて、具体的にアドバイスしている。贈与税や相続税、生命保険などについても、詳しく解説。いわゆるマネー雑誌が刊行される前だっただけに、実践的なマネー情報は新鮮だったのである。

新しい時代に対応するこのようなハウツー本の傾向は、雑誌にも現れた。たとえば、広いスペースの住居を新たに持つことがますますむずかしくなってきた時代にふさわしい、「ふたりの部屋」という隔月刊の雑誌が創刊された。狭いスペースをいかにして広く、しかも洒落て使うかに関心を向けた内容で、創刊号特集も"収納"をテーマにしていた。

個人レベルのハウツーだけではなかった。世界をどうとらえるか、広い視野に立った見方も強く求められていた。経済学者ガルブレイスの『不確実性の時代』が分厚い翻訳書であるにもかかわらず、ベストセラーに名をつらねたのも、そんな時代の気分を反映していた。イギリスBBC放送の連続テレビ番組のために書かれた論稿を基にした本で、アダム・スミス、リカード、マルクス、レーニン、ケインズといった経済学者・思想家を掘り下げ、現代はまさに"不確実性の時代"であることを明らかにした。

●昭和53年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『人間革命(10)』(池田大作／聖教新聞社)
2位	『頭のいい税金の本』(野末陳平／青春出版社)
3位	『和宮様御留』(有吉佐和子／講談社)
4位	『五味手相教室』(五味康祐／光文社)
5位	『黄金の日日』(城山三郎／新潮社)
6位	『不確実性の時代』(J・K・ガルブレイス／TBSブリタニカ)
7位	『海を感じる時』(中沢けい／講談社)
8位	『不毛地帯(3・4)』(山崎豊子／新潮社)
9位	『ライフワークの見つけ方』(井上富雄／主婦と生活社)
10位	『犬笛』(西村寿行／徳間書店)

全国出版協会出版科学研究所

▲『頭のいい税金の本』(650円)

▲『不確実性の時代』(2200円)

▲「ふたりの部屋」創刊号(主婦の友社、680円)

スターと名場面
"落ちこぼれ"役の演技が光る「鬼畜」「サード」「曾根崎心中」

繁栄を謳歌する社会からドロップアウトしてしまう人間。そのけっして単純ではない人生に焦点をあてた映画で、演技派のスターたちが高い評価を得た。

松本清張原作の「鬼畜」(野村芳太郎監督)で、緒形拳はとんでもない犯罪に追いこまれる気の弱い男を演じ、新しい境地を開いた。羽振りのよい時期もあった小さな印刷屋の役。女房に圧倒されっぱなしのこの男は、愛人が置き去りにしていった三人の子どもを、女房の手前、なんとかしなければならない。最後は子殺しさえ試みるのだが……。

また、寺山修司がシナリオを書いた「サード」(東陽一監督)では、永島敏行の演技が際立った。売春斡旋と殺人のため、少年院に収容されてなお、社会のお仕着せに抵抗する少年役だった。

近松門左衛門の「曾根崎心中」(増村保造監督)では、愛する男との心中に突き進んでいく遊女を、梶芽衣子が演じて評判を呼んだ。

なおこの年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「愛の亡霊」(吉行和子)「未知との遭遇」(リチャード・ドレイファス)「スター・ウォーズ」(マーク・ハミル、ハリソン・フォード)「アニー・ホール」(ウディ・アレン、ダイアン・キートン)

松竹提供

▲「鬼畜」の緒形拳(左)と、女房役の岩下志麻(中)、愛人役の小川真由美(右)。

東宝提供

▶「サード」で少年のいらだちを演じて見せた永島敏行(左)。

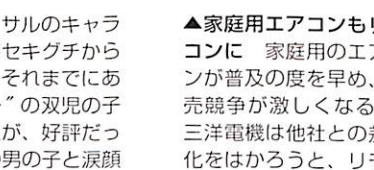
東宝提供

▲「曾根崎心中」で心中を決意する男女を演じた、宇崎竜童(左)と梶芽衣子(右)。

モノ語り'78
ついに出た！ 電子社会の到来をイメージさせる「日本語ワードプロセッサ」「ワイヤレスリモコン付エアコン」

▲カイロのイメージががらりと変わった 直火を懐におさめて寒さをしのぐカイロは、かさばるし、火傷のリスクと背中あわせだった。そこへ登場したのがロッテ電子工業の「ホカロン」。鉄粉が空気中の酸素と反応する時に出る熱を利用したもので、封を切るだけの手軽さと、直火を使わない安心感で、売れ行きを伸ばした。ほかほかとした暖かさがロングに続くところからホカロンと名づけられたが、売れ方もロングだった。1枚100円。

▲簡単な"ごますり"で健康に ごまは代表的な健康食品だが、堅い皮で包まれているので、"ごますり"が必要。すり鉢とすりこ木を使うのが普通だったが、ここに登場したのが、松下電器産業(現・松下電池工業)の電池で動く「ごますり器」。2600円だったが、食卓で手軽においしいごまが作れるというところから大好評、ロングセラーとなった。機能をずばり示したネーミングが、ユーモラスに響いたこともプラスした。

◀今蘇ったキャラクター サルのキャラクター人形「モンチッチ」がセキグチから売り出され大ヒットした。それまでにあった"くたくたモンキー"の双児の子どもとして企画されたが、好評だったので上目づかいの男の子と涙顔の女の子の、独立したキャラクターになった。手にフィットする素材感覚も成功の大きな要因だった。現在も再び若い女性に人気を呼んでいるが、キャラクターに変化はなく、価格も発売当時から1000円と不変である。

▲家庭用エアコンもリモコンに 家庭用のエアコンが普及の度を早め、販売競争が激しくなる中、三洋電機は他社との差別化をはかろうと、リモコンで操作できる機種「ワイヤレスリモコン付エアコン」を発売。ワイヤレスのリモコンから超音波を発してエアコンを操作するという、未来社会をイメージさせるような手軽さが評判になった。1セット22万2000円。

▶ついに出たワードプロセッサ 欧文と違ってたくさんの漢字と仮名で書く日本語は、電子的な処理は無理だろうと見られてきたが、この年9月、ついに東京芝浦電気(現・東芝)が、仮名漢字自動変換の「日本語ワードプロセッサJW-10」の翌年発売を公表した。機能は現在のワープロとほとんど変わらない画期的なものだったが、価格は、フロッピーディスク装置やプリンターなどを含む基本セットで630万円だった。

▲高価なドリンク剤で元気を求めた 1本30ミリリットル入りで1200円という高価なドリンク剤「ユンケル黄帝ゴールド」が昭和52年に佐藤製薬から発売され、この年、テレビコマーシャルを始めたこともあって爆発的な売れ行きを示した。世の中が忙しくなってきて、普通の手段では元気を維持できないのではないかという不安が、新しい疲労回復剤のニーズを掘り起こすことになった。

◀模型自動車によるレースが白熱 田宮模型(現・タミヤ)が昭和51年に発売した12分の1スケールの電動ラジオコントロールカー「ポルシェターボRSR934レーシング」が大ヒット。専用コースでのレースも行われたが、この年、新たにF1タイプのモデルも登場するなど、ラインアップがさらに充実。あわせて新しいタミヤサーキット誕生に象徴される、サーキット・レースも全国で白熱化し、ブームはいよいよ本格的なものになっていった。1台9800円。

人物クローズアップ

矢沢永吉（二八）

「キャロル」を解散して三年目 後楽園で歌った思い出の一曲

昭和五三年、八月二八日の夜。プロ野球のメッカである後楽園球場も、この日ばかりはロックファンに占領された。その数、三万人。矢沢永吉（二八）が、ロック歌手として初めて後楽園球場でソロコンサートを開いたのだった。

矢沢は昭和二四年九月一四日、広島県生まれ。幼くして両親の離婚と父の死別を経験。祖母のもとで育てられる。昭和四三年高校卒業直後、ミュージシャンを志し単身上京するが、横浜で途中下車。

「東京に出る、東京に出ると思ってたオレが、汽車の中で『ヨコハマー、ヨコハマー』と聞いた途端に飛び降りた。そう、ビートルズのリバプールだよ。港町」と、矢沢は当時七〇万部のベストセラーとなった自伝的エッセイ『成りあがり』（昭和五四年刊）に記している。

横浜を根城にして、本格的な音楽活動をスタート。昭和四七年にはビートルズと同じ四人編成のロックグループ「キャロル」を結成。フジテレビの人気番組「リブヤング」への出演がきっかけとなり、人気が爆発。シンプルなリフレインとエイトビート、一曲の演奏時間が短く、ノリのいいロックンロールを武器に「ルイジアンナ」「ファンキー・モンキー・ベイビー」などのヒット曲を量産する。また、テカテカのリーゼント、黒の革ジャンと革パンツ、ブーツの「ツッパリ」スタイルを流行させ、キャロルはひとつの社会現象とまで言われた。

ところが結成三年後の五〇年にキャロルは人気絶頂のまま突如解散し、矢沢はソロ宣言。キャロルから矢沢永吉、ロックンロールからバラード、革ジャンからラメのジャケットへの転進と、あまりの変貌ぶりにとまどうファンをよそに、矢沢は「でも、それがクリエートでしょう。男一匹でしょう？」と言い、「オレはうしろ向かない。（中略）五〇歳になっても、白髪頭で再び五万人ぐらいのコンサートやる。家族全部連れてね、倅も大きくなってるだろう。その時、オレ何やるかな……？『アイ・ラブ・ユー、OK』！」（『成りあがり』より）とも語る。

ソロデビュー曲「アイ・ラブ・ユー、OK」は、そもそも広島時代、一八歳の時の作品。

「一六、一七歳くらいから曲を書き始めたと思う。ビートルズにあこがれ、作曲家という言葉の響きにあこがれた。『アイ・ラブ・ユー、OK』ができた時、〝本当に曲を作っちゃったよ〟という気持ちで、自分の中に何か熱いものが湧き出るのを感じた。オレの作曲道において画期的な曲だと思う」

と、現在四七歳の矢沢は広島時代を振り返って語る。最初にレコード会社に持ちこんだのがこの曲。ソロ宣言した時もこの曲が矢沢のそばにあった。「アイ・ラブ・ユー、OK」は矢沢の成りあがり人生を、矢沢とともに歩んだ曲だった。

後楽園のコンサートでも、後にミリオンセラーとなる新曲の「時間よ止まれ」とともに、特別な思いのこもるこの曲を、矢沢はネオンに輝く都会の空に向け高らかに歌いあげた。

▲後楽園のソロコンサート後、昭和56年に渡米。ドゥービー・ブラザーズと共演するなど、本場でも通用する実力を示した。

▶四〇個のスピーカーから流れる、パワフルでビートの効いた歌と演奏に三万人が熱狂。燃焼しつくした矢沢は、「また来年」の言葉を残してステージを去った。 稲越功一（二点とも）

決定的瞬間

「時は来た、かの地で再会しよう」密林の中で腐敗する九一四の死体 ガイアナ「人民寺院」で集団自殺！

◀11月20日早朝、ガイアナ軍が人民寺院入植地に到着。乳幼児をも含む、900人以上の信者の死体を発見した。

フランク・ジョンストン（ワシントン・ポスト）／WWP

赤道直下、南米ガイアナの森の中の入植地で、異様な事件が起きた。

ヘリコプター上空から現場を眺めた「ワシントン・ポスト」紙の記者は、「中央集会所の周りに誰かが色紙をまき散らしたかのようであった」（「週刊読売」一九七九年一月一日号）とレポートした。その色紙とは、おびただしい数の人間の死体をさしている。

一九七八年一一月一八日、アメリカのレオ・ライアン（民主党）下院議員は、新興宗教団体「人民寺院」の入植地・ジョーンズタウン農場で「虐待、金銭の強奪が行われている」との訴えに対する調査のため、現地を訪れていた。午後四時二〇分、入植地の調査を終えた二〇人の調査団は、農場から一三キロ離れたポルトカイツマの飛行場に到着。ここで農場の警備員たちによって銃撃され、ライアン議員ら五人が射殺された。

この報告はただちに農場にいた教祖ジェームス・ジョーンズ（四七）に伝えられた。彼は議員一行の全員射殺に失敗したことを知り、事件が明るみに出ることを覚悟。この時点で集団自殺を決意したようである。

この入植地では、約一二〇〇人（一九七七年に本格的に移住）の信者が共同生活をしていた。彼は信者たちに中央集会所へ集まるよう指示。続々と集まってくる信者を前に、「時は来た、かの地で再会しよう」と演説を始めた。そして教団の医師と看護婦が、青酸化合物の入った液体をドラム缶の中で調合した。

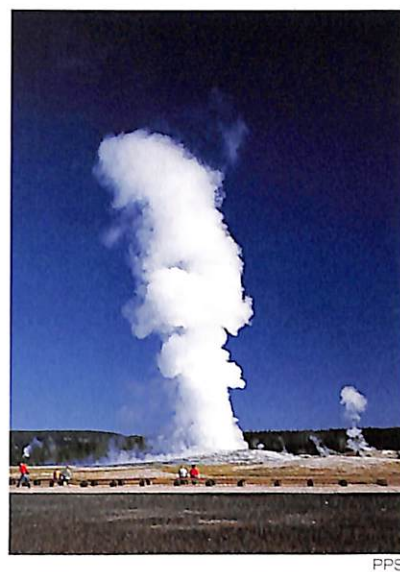
死をかろうじてまぬがれた人々の話を総合すると、液体は紙コップに入れて配られた。液体を飲むことを拒否しようとした信者に対しては、「裏切り者」と罵声が飛び、強引に飲まされたものもいる。ジェームス・ジョーンズは「死は素晴らしい、それは我々の闘争を美化してくれるだろう」と絶叫。彼自身も頭をピストルで撃ち抜いて死んでいる。死者の総数は九一四人にのぼった。

教団は一九五五年にインディアナ州インディアナポリスで設立され、信者の八割が黒人で、ネイティブ・アメリカン、アジア人、白人が残り二割を占めていた。一九六五年にサンフランシスコに移ってから教団は隆盛期を迎える。一時期、信者数は公称で二万人を超えたこともあった。

人種差別に反対し、階級のない理想のコミューン建設をめざした教団は、組織が大きくなるにつれ、徐々に変質していった。核兵器による世界滅亡を予言し、外部マスコミや政府への敵がい心を隠さない。信者の全財産を寄付させて相互監視のシステムを作り、離脱者には懲罰を加える。そして教祖にのみ許された性的な放埒。理想郷への夢は世間の常識からますます逸脱していく。そして「白い夜」という名の集団自殺の、たび重なる予行演習。

一一月一八日夕刻、まるで日没を追うようにして死んでいった九〇〇人を超す信者たち。写真に写された彼らの死体は、熱気の中で腐敗し、不気味で底知れない恐怖を世界に発信していた。そして一七年後、この〝悪夢〟は日本で繰り返されることとなった。

美の出会い

人類の"宝物"を守ろう! ドイツ・アーヘンの大聖堂など「世界遺産」一二件、初の登録

◀アーヘンの大聖堂。この町の歴史は古く、8世紀末、フランク王国のカール大帝が王宮を建設、大聖堂は宮廷の付属礼拝堂として建てられた。宮廷の一部は、現在アーヘン市庁舎として使われている。

▶イエローストーン国立公園。ロッキー山脈中の世界初の国立公園。ワイオミング州の北西端に位置し、熱湯を吹き上げる間欠泉で知られる。大峡谷や湖、森林など自然が豊かで野生動物の宝庫。冬季は積雪のため閉鎖される。

PPS

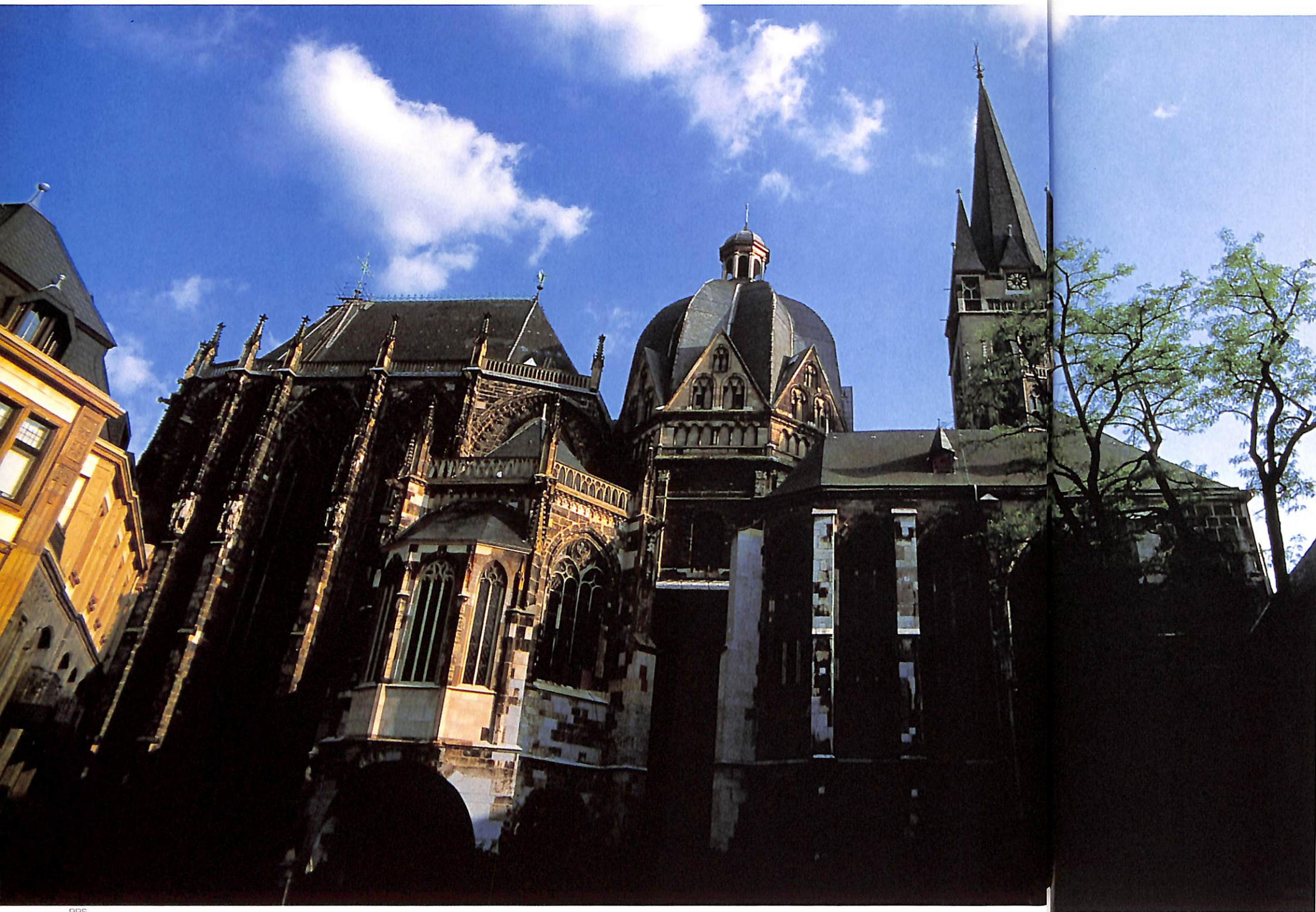
自国の文化財はその国が守るという考えから一歩進んで、地球上に存在するさまざまな文化遺産や自然遺産を、世界のすべての人にとってかけがえのない宝物として、国境を越えて全人類で保護していこうとうたい上げた「世界遺産条約」が、ユネスコ総会で採択されたのは、一九七二年のことだった。そして、六年後のこの年、世界遺産委員会で初の登録がなされた。登録されたのは七ヵ国から以下の一二物件である。

フランク国王カール大帝が建設したドイツの「アーヘンの大聖堂」、ポーランドは「クラクフの歴史地区」と「ヴェリチカ岩塩坑」、エチオピアは、「シミエン国立公園」と「ラリベラの岩の聖堂群」、セネガルは「ゴレ島」、アメリカからは「メサ・ヴァード国立公園」および「イエローストーン国立公園」、カナダは「ナハニ国立公園」と「ランス・オー・メドー国立歴史公園」、そしてエクアドルからは「キトの市街」と「ガラパゴス諸島」である。

これを見てもわかるように、永久に保存していきたい歴史的建造物や街並み、自然公園などがあげられている。その中でも奴隷貿易のために作られた収容所の遺跡であるセネガルのゴレ島は、美的な価値ではなく、人類の犯した愚行を伝え平和を願うための「負の遺産」として異彩を放っている。

国境を越えて戦争や災害から文化財を保護しようという動きは、第一次世界大戦後のヨーロッパで検討され始めた。一九二一年に英・仏政府の提唱により、国際連盟が国際知的協力委員会を設立。哲学者ベルクソンや物理学者アインシュタイン、歴史家ホイジンガ、物理学者キュリー夫人、日本からは宗教学者・姉崎正治らが参加した。一九三〇年に文化財保護に関する条約の草案を作成するが、ナチスの台頭により中止。一九四二年秋、連合国側が勝利を確信し始めた時、ロンドンで連合国文部大臣会議が開催された。これがユネスコの母体となり、教育・文化について復興計画を練ることになる。

「しかし何といっても一九六〇年のアスワン・ハイダム建設をきっかけに、水没する文化財を救おうというユネスコのヌビア・キャンペーンが起こされたのは象徴的な出来事でした」と日本ユネスコ協会連盟理事長の村井了氏が語る。

このキャンペーンは日本でも大きな反響を呼び、子どもたちをはじめ多くの人から寄付金が寄せられた。朝日新聞社主催の「エジプト展」（一九六三年）、「ツタンカーメン展」（一九六五年）では、それぞれ一億五〇〇〇万円、三億円の純益をすべてユネスコに寄付したのである。

こうして一国の文化財を国境を越えて守ろうという気運が醸成されていった。そして、ついに一九七二年、第一七回ユネスコ総会で、「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」いわゆる「世界遺産条約」が採択されたのである。

一九九七年一月現在、世界遺産条約締結国は一四七ヵ国、世界遺産の登録は五〇六件にのぼる。その中には自然災害、地域紛争、経済開発などにより危機にさらされている世界遺産が二二件あげられている。「この問題は、辛抱強く解決策を検討していかなければならない。たとえば日本画家の平山郁夫先生が提唱しておられる『文化財赤十字』のような大きな構想でのぞむ必要があるでしょう」と村井氏は今後の課題を模索する。

日本の参加は遅く、一九九二年になってようやく第一二六番目の締結国となった。「一九七〇年代の日本は、まだ文化財や自然保護に対する認識は低かったでしょう。世界遺産も、関係省庁、政党間で意見をまとめられなかった。国民が世界遺産に親近感を抱くようになったのは、広島の原爆ドームの登録が話題になってからですね」と村井氏は振り返る。

現在、日本の世界遺産は法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、京都の文化財、白川郷・五箇山の合掌造り集落、厳島神社、広島平和記念碑（原爆ドーム）の八ヵ所が登録されている。

▲ポーランド第3の都市クラクフは、14世紀から約300年間、首都がおかれていた。ここには15世紀の祭壇で有名な聖母マリア聖堂をはじめ50以上の古い聖堂や、王宮のヴァヴェル城、1364年に創立されたヤギエウォ大学など中世の建造物がそのまま残っている。第二次世界大戦中はドイツ軍の占領地総督府がおかれたため、戦禍はまぬがれた。

PPS

「現場」を歩く

原宿

有料駐車場になった「竹の子族」の〝ステージ〟

山本徹美

▲歩行者天国の廃止により、現在は代々木公園入り口よりも原宿駅周辺でコスプレ姿を見かける程度に。 奥村健太郎

新宿駅 新宿区 代々木駅 中央本線 山手線 原宿駅 渋谷区 港区 渋谷駅

昭和五三年、映画「サタデー・ナイト・フィーバー」が大ヒット。その影響も加わり空前のディスコ・ブームとなる。

新宿のディスコ「カンタベリーハウス・ペルシャ館」には、まるでアラビアン・ナイトから抜け出したような衣裳で踊る一団が登場した。そのリーダー的存在だったのが沖田浩之（現・三四歳）である。

「仲間の彼女がブティック『竹の子』でバイトしてて、それで店の服を買った。一着二〇〇〇円前後と安かったし、ほかの連中にも『かわいい』なんて受け、すぐに広まり、新宿で大流行したんです」

その「竹の子」のオーナー・大竹竹則氏（現・四七歳）は次のように振り返る。

「桜上水（世田谷区）で創業したのが昭和四九年。五二年頃は新宿など都内に七店舗、展開していました。一〇代をターゲットにオリジナル・ファッションを打ち出した。それがハーレムスーツに代表される〝竹の子ファッション〟です」

沖田少年たちは「竹の子族」と呼ばれた。いずれも高校生。徹夜でディスコに入りびたるのは非行化の原因、と当局が指導対象に。ディスコ店側も彼らにフロアを占有されては客が減る、と締め出す。

「場所を求めて原宿に行き、駅の改札前で踊っていたらおまわりさんが、『ここはだめだ。あっちでやれ』と指定した。それが、代々木公園入り口（神園町）にある陸橋の下、歩行者天国でした」

若者の姿が消えた

昭和五四年二月、沖田少年ら八人で構成される「蘭奈亜珠」は路上を舞台に踊り始める。翌年にはその代々木公園歩行者天国はディスコを追い出された竹の子族たちの一大ステージと化し、見物客を含めると日曜ごとに一万人を超える混雑ぶりであった。

同時期、ブティック「竹の子」も、原宿・竹下通りに移転。

「既存の七店舗すべて撤去して、原宿に三店舗オープンさせた。ある店など客の重みで床が抜けるほどの大盛況でした」

一方、沖田は五五年、芸能プロダクションにスカウトされ、俳優としてデビュー。その後代々木公園歩行者天国から竹の子族の姿が消え、ロックンローラー、パフォーマーなどが席巻し始める。

「ブームが下火になるのは計算ずみ。五六年頃から二〇～五〇代の主婦を対象にしたものに切り替えています」（大竹氏）

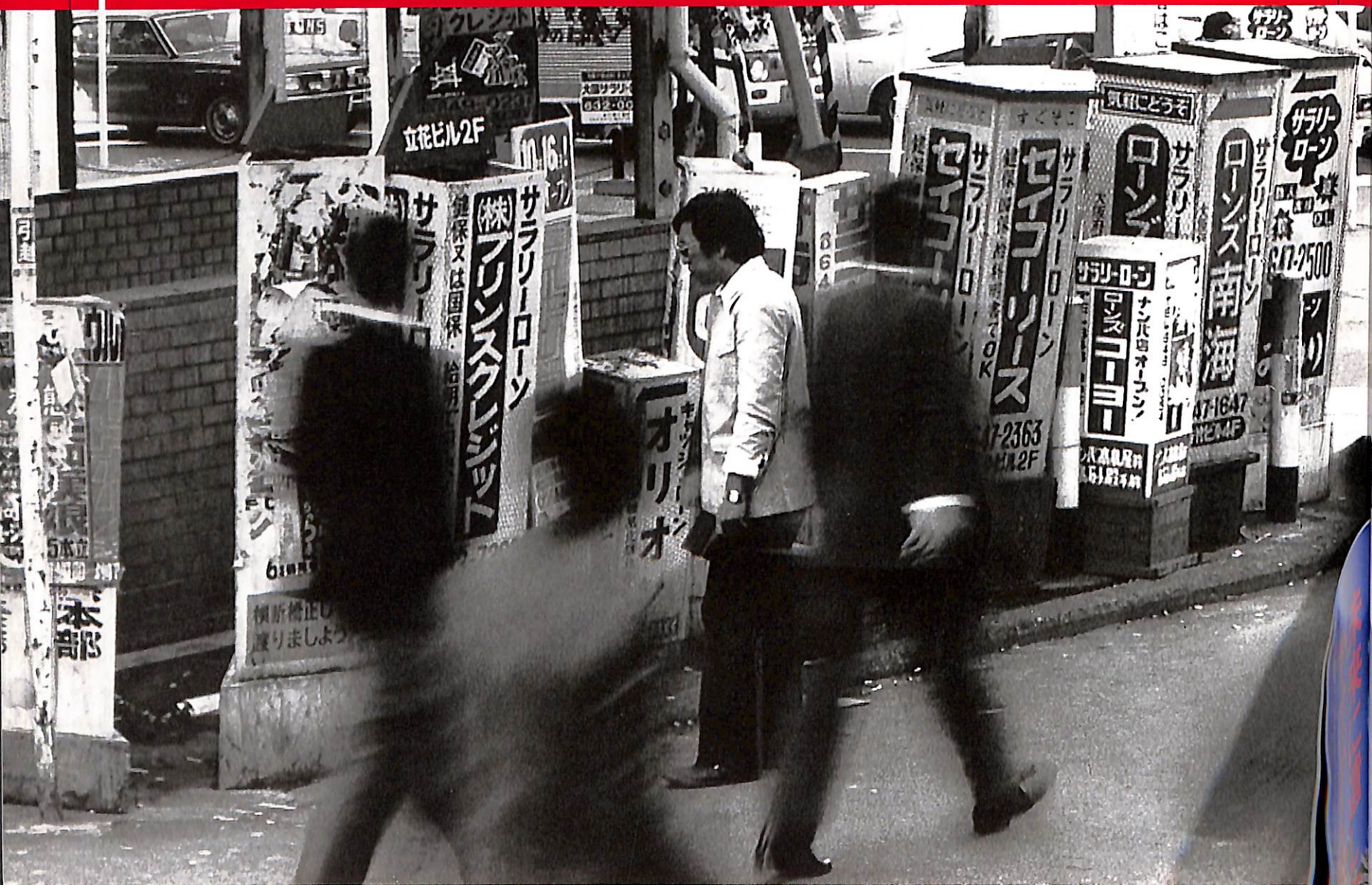
平成七年一二月末、代々木公園歩行者天国廃止。車道両側は都が管理する時間制有料駐車場となり、ずらりと車がつらなる。若者のたむろする姿はほとんど見かけなくなった。沖田が指摘する。

「ぼくは不良だったけど発散できる場所があったから救われた。今の高校生はそれすら与えられない。だから非行にしても、陰湿化しているように思います」

たしかに、現在、ゲームセンターに集まる若者に竹の子族のような活気はない。

▲ラジカセの音楽に合わせて踊る若者たちは、最盛期の昭和55年8月にはグループ数30余、約1200人にものぼった。 毎日新聞社

高金利、過剰な貸し付け、苛酷な取り立て！

自殺者180人を出した「サラ金地獄」のカラクリ

▲街頭に氾濫する看板。サラリーマン金融は、昭和38年に大阪の貸金業者が始めたのが最初と言われる。 毎日新聞社

この年、「サラ金地獄」という言葉が流行語となった。手軽に借金できる一方で、年利一〇九・五％という高金利。しかも業者の取り立ては、常識を超えたものだったのである。「サラ金苦」から逃れるために、自殺をしたり家出をする人々。あまりのことに、警察庁や大蔵省も実態調査に乗り出したが、法的な規制もないまま問題はますます深刻化していった。

〝苛酷な取り立て〟は貸し倒れを恐れるため

「サラ金等貸金業の在り方が社会問題化している背景の一つに（中略）融資金返済や苛酷な取り立てを苦にした自殺、家出が多発したことが挙げられる。昭和五三年の貸金業利用者の自殺、家出の状況は、（中略）一八〇人が自殺し、二二〇三人が家出」（『昭和五四年警察白書』）

昭和五三年一〇月一二日に警察庁が行った実態調査は、五〇年代に入って表面化していた「サラ金問題」の深刻さを浮きぼりにした。右の白書にあるように、三〇代、四〇代の男性を中心に、主婦や学生までが、自殺や家出によって、「サラ金苦」から逃れようとしたのだった。

サラリーマン金融、いわゆる「サラ金」が生まれたのは昭和三八年頃のこと。無担保・無保証で借りられる手軽さから、サラ金業界は急成長し、昭和五三年六月末には業者数約二万六〇〇〇社、貸出残高は約八六〇〇億円に達していた。

しかし、その裏には、常識を超えた〝苛酷な取り立て〟があったのである。昼夜を問わず電話が鳴り、家の周囲に

▲取り立てに耐えかねて、一家で夜逃げ。借金返済のための犯罪も頻発し、この年だけで5511件に達した。 毎日新聞社

は「金かえせ」の張り紙。恫喝、脅迫は当たり前で、葬式の席に乗りこんで香典を持ち去ったり、生活保護者の保護カードを取り上げて生活保護費をむしり取る業者もいた。

取り立ての恐怖は全国で次々と悲劇を生んだ。たとえば八月には、借金した妻が四人の子どもを残して家出したため、前途を悲観した夫が四女（五歳）を絞殺してダイナマイト自殺（岐阜）。その二日後には蒸発した夫の借金返済を苦に妻が二児（六歳・三ヵ月）を巻き添えに焼身自殺（福井）している。本人だけでなく、その家族も巻きこんで「サラ金地獄」は広がっていったのだ。

また一家蒸発も多発したが、住民票を手がかりに取り立てが来るために住民票が移せず、長期欠席する子どもが増加。文部省は住民票なしでも転校できることを「便宜的措置」として認めた。

「当時は法的規制がなかったため、業界は無法地帯だったのです」と語るのは東京クレジット・サラ金問題対策研究会事務局長の宇都宮健児弁護士。

同じ五三年の一〇月一七日に発表された大蔵省の調査結果も、野放しの業界の実態を明らかにした。当時の上限金利は年利一〇九・五パーセント。一年で借金が倍になるシステムにもかかわらず、金利表示を年率にしている業者は五三・七社中わずか一・四パーセント。上限金利を超えると目される業者も三三・三パーセントにのぼっていた

「高金利、過剰な貸し付け、苛酷な取り立てが『サラ金三悪』と言われましたが、無担保で金を貸すサラ金の場合、貸し倒れで資金回収ができなくなるのが一番困るんです。だから強硬な取り立てが横行したのです」（宇都宮氏）

こうした状況に対して、五三年一一月二五日には弁護士や学者、被害者の会代表らが「全国サラ金問題対策協議会」を発足させ、サラ金規制の立法化をめざして活動を始めた。東京弁護士会のサラ金相談センターでは、五七年から五九年のピーク時には二ヵ月先まで予約は一杯。

▲借りやすい反面、超高利だったため雪だるま式に借金がふえるケースが続出。返済催促に来た業者がブザーを鳴らしながら様子をうかがう。 朝日新聞社

予約券にダフ屋で一〇万円の値段がつく、という〝皮肉〟な場面まで登場した。

「ただ、予約者の半分くらいは当日になっても来ない。予約してから相談日までの一、二ヵ月が辛抱できないほど、業者の取り立てがきつかったのです。相談に訪れる人は、みんな目は充血していて、顔色は真っ青、大半は生活苦から借金した人たちでした。ギャンブルが原因の人も、ギャンブルに使えるのは最初の一回だけ、後は高い利息を払うために借金を重ねるケースが多かった」（宇都宮氏）

規制法は成立したものの拡大し続けるサラ金問題

サラ金地獄にようやく歯止めがかかったのは五八年一一月一日、「サラ金規制二法」（貸金業規制法・改正出資法）が施行されてからだ。サラ金の営業は届け出制から登録制となり、上限金利は実施後三年間は年利七三パーセント、その後五四・七五パーセント、四〇・〇〇四パーセントへ順次切り下げることが決まった。また暴力的な方法や夜九時から朝八時までの取り立てが禁じられた。これによって、一方では貸し倒れが続出し、中小サラ金業者の倒産が相次いだ。五六年の決算で前年比九〇・四パーセント増、貸出残高一一八二億円と業績を伸ばした業界一位の武富士も、五八年末の決算では貸し倒れが約三一五億円。プロミス、アコム、レイクなど大手四社の合計は七七八億円にものぼった。

しかしサラ金の問題が根本的に解決されたわけではない。

「たしかに深夜、早朝の取り立てはなくなりましたが、阪神・淡路大震災の被害者相手に、避難所まで電話をかけて催促した業者もあります」（宇都宮氏）

「サラ金地獄」当時、一日一人だった借金苦が原因の自殺者も、平成六年には七人に、消費者信用の供与残高も七四兆九一〇億円に跳ね上がっている。ちなみに、平成一〇年度の国の予算は八〇兆五〇〇〇億円（大蔵省概算要求）である。

「無人契約機などで借りやすくなったことで過剰融資が進み、多重債務者もふえています。しかも、この低金利時代に大手でも年利二六パーセントと高金利体質はまったく改善されていない。昨年、自己破産者が五万件を超えましたが、その中には負債総額が一〇〇〇万円を超えている人が多い。規模からすれば、今の方がもっと深刻化しているのです」（宇都宮氏）

▲「サラ金問題を解決する会」の発起人が、7月21日神田駅前でアピール。 読売新聞社

フォト＋日録で再現する365日

▲**来島ドック・坪内社長、初めて佐世保へ(7月21日)**造船不況で経営難におちいった佐世保重工救済のため、6月29日社長に就任。この日4000人の従業員に労使協調とやる気を訴えた。

読売新聞社

読売新聞社

▲**山口組・田岡組長狙撃(7月11日)**京都のナイトクラブ「ベラミ」で、対立する松田組系大日本正義団の鳴海清(25)に、ピストルで撃たれ3週間のケガ。鳴海は9月六甲山中で死体となって発見された。

読売新聞社

▲**17年ぶり、隅田川に花火復活(7月29日)**東京・両国の花火が、「隅田川花火」として復活し、80万人が見物。高度成長期の汚濁から蘇った川面に1万5000発が映えた。

毎日新聞社

▲**「さらば宇宙戦艦ヤマト」に徹夜組(8月5日)**作者の松本零士が、みずから監督したシリーズ第2作。東京・渋谷の東急文化会館には、1500人のファンが並んだため、午前4時半から上映された。

朝日新聞社

▲**栗栖統幕議長、解任(7月28日)** 19日の記者会見で、「有事の際、自衛隊は超法規的行動をとりうる」と述べ、シビリアン・コントロール逸脱として解任された。写真は最後の栄誉礼を受ける栗栖。

▶**アメリカ先住民、抗議の行進(7月15日)** 200部族1300人が、西海岸からワシントンまで5000キロを歩き、自分たちの生存や遺産の危機を訴えた。

ロイター／サンテレフォト

昭和53年7月

1(土)●厚生省、平均寿命男七二・六九歳、女七七・九五歳で日本が世界一の長寿国になったと発表。
2(日)●関西医大で市販の喘息薬乱用により幻覚症状を起こすなど中毒になった三人が見つかる。
3(月)●立教大法学部、社会人別枠入学制実施と発表。
4(火)●電力業界、季節別・時間帯別料金制の導入決定。
5(水)●米産サクランボが輸入自由化され第一便到着。
●国鉄、リニアモーターカー走行実験で最高時速三三七キロの世界新。
6(木)●文部省、義務教育教材基準を一〇年ぶりに改定。各クラスにカラーテレビなど。
7(金)●貿易黒字削減に緊急国際収支対策本部発足。
8(土)●B・ボルグ、全英テニスで四二年ぶり三連覇。
9(日)●ペンションが二年で四倍の二〇〇軒と新聞に。
10(月)●クラレ、ソフト型コンタクトレンズを発売。
11(火)●京都市で山口組組長・田岡一雄が松田組幹部に狙撃され負傷(9月20日幹部の他殺体発見)。
12(水)●筑摩書房倒産。負債六〇億円で出版界最大。
13(木)●都公安委、荒川区の深夜スナックにカラオケ騒音で風営法を初適用し一〇日間の営業停止。
14(金)●フィリピン、日本から手榴弾部品輸入と発表。
15(土)●米先住民が生存権求め二月に出発した「ザ・ロンゲスト・ウォーク」がワシントン到着。
16(日)●ボン・サミットで福田首相が七％成長を公約。
17(月)●全国の郵便局で進学積立貯金の受付開始。
18(火)●北海道で都道府県初のアセスメント条例成立。
19(水)●栗栖統幕会議議長、記者会見で緊急時には自衛隊の超法規的行動もあると発言(28日更迭)。
20(木)●新日鐵、明治三四年以来稼働の八幡製鉄所四号高炉の操業を停止。
21(金)●ニューヨーク外為で円が初の二〇〇円突破。
22(土)●映画「サタデー・ナイト・フィーバー」封切。
23(日)●運輸省、騒音が激しい全国一五空港周辺民家に全室防音工事を行う方針を決定。
●京都府警巡査部長・広田雅晴、ギャンブルでのサラ金返済に困り郵便局に強盗未遂で逮捕。
24(月)●金田正一、長嶋茂雄ら「名球会」結成。
25(火)●英で世界初の体外受精児(試験管ベビー)出産。
26(水)●国産初の民間ジェット機完成と三菱重工発表。
27(木)●女性ドライバーが一年で七七万人増と警察庁。
28(金)●第一回女子柔道選手権大会、講道館で開催。
29(土)●東京の隅田川花火大会が一七年ぶりに復活。
30(日)●沖縄県で「車は左」に交通規則切り替え。
31(月)●東京で七月の熱帯夜が史上最高一七日を記録。

証言・あの日この日

吉行淳之介(54)

12月22日(金)〈寝不足で、困ったが、起きてしまい、十時に有楽座横のゲームセンターで遊ぶ。ブロックというゲームで、挑戦一年後でようやくパーフェクトを完成(つまり、テレビ・ゲーム画面からすべての矩形を消し去ったわけで、記念すべき朝)〉(吉行淳之介「一週間の記録」)

帝国ホテルにカンヅメでいる吉行は、この後、エッセイを2枚半書き、FM東京のインタビューと「新刊ニュース」の取材を受けた後、〈六時より、銀座「レンガ屋」で山口百恵嬢との対談の予定だったが、七時四十五分からに延期になる。……七時三十分、ホテルを出て、四十分に会場に到着。すでに編集部のT氏、H氏、カメラのB氏、女性速記者二人が揃っている。ドライ・シェリーを飲んでいると、八時十五分に同編集部S氏より電話があり、いま赤坂を出発したという〉。 (坪内祐三)

▶**王(38)、20年で800号(8月30日)**東京・後楽園球場での巨人対大洋戦で、6回裏、大川投手から右中間スタンドに。前人未到の記録を達成した。

読売新聞社

毎日新聞社

▼**露出度は最高(8月)**記録的な猛暑が続き、熱射病による死者まで出したこの夏、肩を出すタンクトップが大流行した。写真は東京・原宿で。

▼**円高差益還元問題(8月29日)**衆院の物価問題特別委は、(左から)平岩外四電気事業連合会長、石田正實石油連盟会長、安西浩日本瓦斯協会会長を参考人に招き、円高差益をただした。

▲**ノーブランド商品登場(8月20日)**ダイエーは、流通段階での経費や包装費の節減で、メーカー品より約3割安い調味料など13品目を主要店で発売。消費者のむだをはぶいた低価格志向にこたえた。

読売新聞社

昭和53年8月

1(火)●郵便貯金のオンライン化開始。
2(水)●不振の縫製業界がミシンの三割共同廃棄決定。
3(木)●東京地裁、スモン訴訟でキノホルムが唯一の原因と認定し原告勝訴の判決。
4(金)●東京・中野区で教育委員準公選請求署名提出。
5(土)●アニメ映画「さらば宇宙戦艦ヤマト」封切。
6(日)●米国各地で「ヒロシマ・デー」。原子力発電所前などで集会やデモ(四〇〇人以上逮捕)。
7(月)●武道館で聾唖者による「手話コーラス」初披露。
8(火)●PTA全国協議会、「8時だヨ!全員集合」などテレビワースト七番組を公表。
9(水)●工藤政志、世界J・ミドル級の王座獲得。
10(木)●銀座松坂屋で「アンネの日記」展開催。
11(金)●警視庁、来日中のザ・ベンチャーズのジョー・バリルを麻薬取締法違反容疑で逮捕。
12(土)●北京で日中平和友好条約調印。
13(日)●前日本山岳会会長・今西錦司(七六)、奈良県の釈迦ケ岳に登頂し、千山登頂を達成。
14(月)●新宿でローラー・ディスコ・コンテスト開催。
15(火)●東京・新宿で昭和二年米国から贈られた「青い目の人形」一万余体のうち三三体を展示。
16(水)●血液在庫が四三％で不足深刻と東京都衛生局。
17(木)●運輸省、リニアモーターカー計画を国鉄と日航の二方式で進める方針を決定。
18(金)●NHKに文字多重放送実験局の予備免許。
19(土)●国土地理院が昭和三九年以来進めていた二万五〇〇〇分の一の地図作りが完成、と新聞に。
20(日)●資生堂、CMソングに堀内孝雄の「君のひとみは一〇〇〇〇ボルト」を使い始める。
21(月)●岐阜県でサラ金苦の男がダイナマイトで自殺。
22(火)●植村直己、グリーンランドの単独縦断に成功。
23(水)●桶川市で三四年ぶり帰国の「零戦」公開飛行。
24(木)●円高差益還元で電力・ガス料金暫定値下げ。
25(金)●日産自動車、電子制御気化器搭載の「ブルーバード」発表(以後、自動車の電子化進む)。
26(土)●日本テレビ、二四時間チャリティー番組「愛は地球を救う」を初の全国放映。
27(日)●第一回「全日本おかあさんコーラス全国大会」。
28(月)●後楽園球場で矢沢永吉コンサート。二キロ先からも騒音苦情殺到(富坂署が厳重注意)。
29(火)●川崎の中学で授業中教師に暴行の三九人補導。
30(水)●文部省、高校の学習指導要領改正。「現代社会」新設、進度別学級編成を認める。
31(木)●阪急の今井投手がロッテ戦で完全試合達成。

▲**自衛隊機、民家に墜落（9月8日）**航空自衛隊入間基地を離陸したジェット練習機が、埼玉県狭山市で墜落・炎上した。乗員二人が死亡し、住宅とアパート2棟が全半焼した。

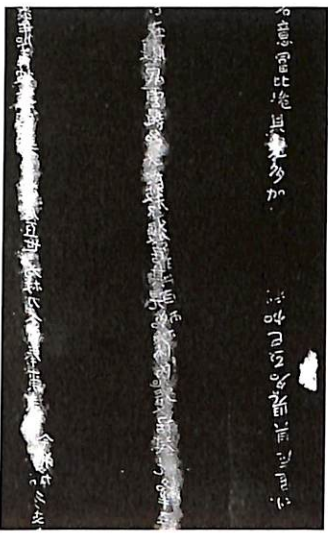
毎日新聞社

▼**36歳のモハメド・アリ、奇跡のカムバック（9月15日）**米ニューオーリンズでの世界ヘビー級タイトルマッチで、チャンピオンのレオン・スピンクス（左）を判定で破り、7ヵ月ぶり3度目の王座についた。

WWP

読売新聞社

◀**合併見送り（9月27日）**預金・貸出金の減少に悩む関西相互銀行は、住友銀行との合併を決めたが、経営内容は健全とする従業員や取引先の強い反対で白紙撤回された。

▼**鉄剣文字、蘇る（9月19日）**埼玉県の稲荷山古墳出土の鉄剣から、X線撮影で金色の115字（写真）が浮かび、考古学上の大発見となった。

▼**建設中の橋梁落下（9月9日）**群馬県赤城村の利根川に架橋中の綾戸橋が崩壊。30メートル下の川原へ落ちた作業員4人が死亡した。

共同通信社

読売新聞社

共同通信社

▲**強風猛威の台風18号（9月15日）**福岡市で瞬間最大風速が46メートル、各地で6人が死亡した。写真は三萩野競技場で、高跳び用マットごと高校生4人が吹き飛ばされた模様。

昭和53年9月

1（金）●石油精製二四社の所得が前年の五倍と国税庁。
2（土）●バンクーバーで水上飛行機が海上に墜落。日本人ツアー客九人を含む一一人死亡。
3（日）●サラ金の八割が法定金利の倍以上と法務省。
4（月）●三洋電機、円高で米国に製造会社設立と発表。
5（火）●ベトナム難民が下関入管で初の定住手続き。
6（水）●七、八月の電力供給は原子力発電が初めて水力発電を上回った、と中央電力協が発表。
7（木）●千葉市役所でギャンブルからサラ金苦におちいった職員が二〇人、蒸発者も五人と新聞に。
8（金）●イランで王制打倒の一〇万人デモ。
9（土）●「時間よ止まれ」「Mr.サマータイム」などイメージソングが大流行、と新聞に。
10（日）●女性一七人がボディビル実業団大会に初出場。
11（月）●宇都宮市で蜉蝣大発生、車二〇台玉突き衝突。
12（火）●松下幸之助、松下政経塾の設立を発表。
13（水）●松下技研、点字と片仮名の変換装置を発表。
14（木）●六五歳以上人口が三〇年で二・六倍と総理府。
15（金）●ダイエー、ノーブランド商品を全国で発売。
16（土）●豊橋市の食品会社がベビーフードの原料に大量の放射線照射と判明（25日社長逮捕）。
17（日）●エジプト・イスラエル・米三ヵ国首脳、中東和平調印（キャンプ・デービッド合意）。
18（月）●東京に大規模店・八重洲ブックセンター開店。
19（火）●埼玉県教委、稲荷山古墳から出土した鉄剣の金石文一一五文字の解読結果を発表。
20（水）●東武伊勢崎線で「連続ほお切り魔」逮捕。
21（木）●ロンドン金市場、田中貴金属工業を日本初の金地金検定業者に認定。
●統一協会、埼玉県神川村で文鮮明教祖出席し、一六一〇組の合同婚約式を挙行（〜23日）。
22（金）●民放六社とNHKに音声多重放送の予備免許（28日、日本テレビ日英二ヵ国語の初放送）。
23（土）●ヒマラヤのダウラギリ（八一六七㍍）めざした群馬県登山隊の三人、雪崩で死亡。
24（日）●結核が一〇大死因から姿消す、と新聞に。
25（月）●厚生省、被爆二世の初の健康診断実施を決定。
26（火）●東芝、初の日本語ワープロ「JW-10」を翌年二月に発売と発表。一台六三〇万円。
27（水）●電電公社、光ファイバーによる伝送実験成功。
28（木）●パイオニア、ビクターなど三社、各社独自方式のビデオディスク・プレーヤーを発表。
29（金）●本人承諾なしのロボトミーは違法と札幌地裁。
30（土）●文部省の招きで二二人の英国人英語教師来日。

報知新聞

▲**西武ライオンズ誕生（10月12日）**クラウンライター・ライオンズの買収と、本拠地を埼玉県所沢球場へ移すことが決まり、東京の国土計画本社で堤義明同社社長（左）と、クラウンライターの中村長芳オーナーが調印、発表された。

◀**青木功、世界のアオキに（10月16日）**イギリスで行われた世界マッチプレー選手権決勝で、サイモン・オーエンを下した。日本人男子初の世界制覇を、青木（36）は夫人とともに喜んだ。

WWP

▶**原子力船「むつ」佐世保入港（10月16日）**原子炉遮蔽体の改修と総点検のため、11日母港の青森県大湊港から回航された。「むつ」（写真左端）入港を阻止する、反対派の漁船やボート50隻の海上封鎖を突破し、佐世保重工岸壁に到達した。

共同通信社

ロイター・サン／共同通信社

▲**ヨハネ・パウロ２世誕生（10月16日）**新法王がポーランド人のボイティワ枢機卿（58）に決まった。イタリア人以外から選ばれたのは1523年以来456年ぶり。

◀**北海道・有珠山で泥流（10月24日）**前年8月以来、噴火が続く有珠山が集中豪雨に見舞われ、火山灰が泥流となって洞爺湖温泉などを襲い、3人が死亡した。

読売新聞社

読売新聞社

▲**奥多摩に新たな鍾乳洞（10月）**東京・奥多摩の日原地区で、洞穴探検者の集まりである「もぐらケービング・クラブ」が見つけた。推定総延長は3200メートルと全国有数の規模。

昭和53年10月

1（日）●夏目雅子・堺正章らの「西遊記」放映開始。
2（月）●東京・新宿に障害者雇用自立センター開所。
3（火）●閣議、四八年以来凍結の新幹線整備を解除。
4（水）●ヤクルト球団、セリーグ初優勝（22日、日本シリーズ優勝。阪急の四連覇を阻止）。
5（木）●国際陸上競技連盟、中国の加盟を承認。
6（金）●世界六大宇宙線観測網のひとつ、東大宇宙研の観測所が山梨県明野村に完成、観測開始。
7（土）●日本初のコンピュータと人間のチェス試合開催。コンピュータが三戦全敗。
8（日）●宮古市で第一回全国タウン誌会議開催。
9（月）●サントリー、国産初の「貴腐ワイン」を発売。
10（火）●河内卓国立がんセンター副所長、魚・肉の焼け焦げに発癌物質を確認と発表。
●本四連絡橋（児島―坂出間）の瀬戸大橋起工式。
11（水）●原子力船「むつ」大湊出港（16日佐世保入港）。
12（木）●警察庁、初のサラ金被害調査を発表。
●国土計画、プロ野球のライオンズ球団を買収。
13（金）●医療法改正。「美容外科」を正規診療科と認知。
14（土）●自転車盗難二三万件で検挙率三割、と新聞に。
15（日）●東京の上野―浅草間に二階建てバス運行。
16（月）●青木功、ゴルフ世界マッチプレー選手権で優勝。日本男子初の海外戦制覇。
17（火）●靖国神社、東条英機らA級戦犯一四人を合祀。
18（水）●無限連鎖講（ネズミ講）防止法案成立。
19（木）●住友、富士両銀行、担保なし、三〇万円までの低利小口融資を二三日実施と発表。
●世界五〇〇〇号のマクドナルド江の島店開業。
20（金）●宝飾ダイヤ輸入が一〇〇〇億円突破と新聞に。
21（土）●福岡歯大、乱脈経営で理事・評議員ら総辞職。
22（日）●中国の鄧小平副首相来日（24日田中角栄訪問）。
23（月）●前年の都内の火災原因一位は放火、と新聞に。
24（火）●北海道有珠山からの泥流が洞爺湖温泉などを襲い、三人死亡、二〇〇世帯避難。
25（水）●世界体操選手権で日本男子が一〇連覇達成。
26（木）●新日鐵、四製鉄所の九設備休止と組合に提示。
27（金）●在韓国連軍、北朝鮮側のトンネル発見と発表。
28（土）●国営有明干拓事業、着工以来四五年で完成。
29（日）●スモン和解を唯一拒否した田辺製薬に対し田辺製品の処方をボイコットする医師の会結成。
30（月）●日本のバレーボールファンに「応援がフェア」とユネスコ・フェアプレー賞が贈られる。
31（火）●府中市で九歳の少女が教室で首吊り自殺（警視庁の統計史上では最低年齢）。

▲国鉄、「いい日旅立ち」キャンペーン(11月3日) 全国主要68駅での駅の美術展開催、6枚つづり回数券、一日乗車券の発売などが企画された。写真は11月3日付「朝日新聞」の広告。

▼毛沢東批判の壁新聞出現(11月) 過去の見直しが急ピッチで進む中国で、北京市内に、1976年に死去した毛沢東主席を名ざしで批判する壁新聞が張り出され、大きな反響を呼んだ。

読売新聞社

毎日新聞社

▼ベトナムのボートピープル増加(12月5日) この年、ベトナムに見切りをつけた華僑などの難民は8万6000人に。写真は沈没寸前のボートで、マレーシア沿岸にたどり着いた150人の難民。

WWP

▲江川(23)、巨人と契約(11月21日) 西武の入団交渉権は前日で喪失。翌日のドラフト会議までのこの日が自由に契約できるという野球協約の盲点「空白の一日」をつき、巨人が契約を強行した。

読売新聞社

▲都の重文に乗用車激突(11月23日) 時速80キロの乗用車が東京・湯島天神の鳥居に衝突。330年前に建立の鳥居は台座ごと折れたが、乗っていた4人は軽傷ですんだ。

▶女性の方が意欲的、初の社会人入学試験(11月11日) 立教大法学部が実施、1次試験をパスした89人が受験した。16日の合格者発表では、34人中、23人が女性だった。

読売新聞社

昭和53年11月

1(水)●米下院、金大中事件はKCIAの犯行と断定。
●新宿に三万冊集めた「現代マンガ図書館」開館。

2(木)●アラブ首脳会議開催(5日キャンプ・デービッド合意に反対するバクダッド宣言を採択)。

3(金)●国鉄、「いい日旅立ち」キャンペーンを開始。
●山梨県立美術館、ひろしま美術館、開館。

4(土)●通産省、東電柏崎刈羽原発の工事計画を認可。

5(日)●オーストリアの国民投票で原発稼働否決。

6(月)●真宗大谷派の大谷法主、本山東本願寺を宗派から離脱と発表。改革派との内紛深刻化。

7(火)●韓国で米韓連合司令部発足。

8(水)●不況で海外投資減り事業撤退が急増と通産省。

9(木)●厚さ二ミリの電卓、カシオミニカードを発売。

10(金)●ピンク・レディー、NHK紅白を辞退と発表。

11(土)●医師国家試験の合格率三九・六%、史上最悪。

12(日)●円広志の「夢想花」が世界歌謡祭グランプリ。

13(月)●前早大学長らが「原理運動を憂慮する会」結成。

14(火)●「日米半導体戦争」対策で訪米中のメーカー代表団、日米半導体ゼミナール開催。

15(水)●大店法改正で中型店の出店規制を強化。

16(木)●中国、天安門事件被告全員の名誉回復を開始。

17(金)●閣議、特定不況対象地域に函館・呉・今治・佐世保など三〇地域指定と決定。

18(土)●米の新興教団「人民寺院」の信者九一四人がガイアナの入植地で集団服毒自殺。

19(日)●東京で初の反公害全国集会、千余人参加。

20(月)●食糧庁、消費拡大のため米穀商の登録制緩和。

21(火)●江川卓と巨人、「空白の一日」つき電撃契約。

22(水)●マレーシアに上陸拒否されたベトナム難民船がマレー沖で座礁、二〇三人が水死。

23(木)●北の湖、大鵬の記録抜き年間最多八二勝達成。

24(金)●人口急増都市協議会、首都・近畿圏中心に小中学校で五六〇〇教室が不足と発表。

25(土)●全国サラ金問題対策協議会、創立。

26(日)●自民党総裁選予備選で田中支援の大平正芳、福田首相おさえ一位(27日福田が本選辞退)。

27(月)●警察庁、広域暴力団・稲川組の壊滅方針を決定。

28(火)●閣議、ドル減らしのためにマチス、ピカソなど西洋美術八億五〇〇〇万円の輸入を了承。

29(水)●静岡県、M八・〇規模の東海大地震で県内世帯の四四・五%が火災、と被害予想を発表。
●佐渡島の朱鷺一斉調査で六羽を確認。

30(木)●東京・新宿の超高層ビルで二〇八メートル「登頂」に成功の青年が建造物侵入の現行犯で逮捕。

▲▶商業捕鯨に2つのデモ(12月19日) 北太平洋のマッコウクジラの捕鯨枠を決める、国際捕鯨委員会が開かれた外務省周辺では、捕鯨会社従業員らの存続派(上)と、環境団体の廃止派(右)のデモが行われた。

時事通信社

朝日新聞社

▲米中、国交樹立(12月15日) カーター大統領と華国鋒主席は、同時に、翌年1月1日から国交を樹立すると発表。1972年以来交渉が続けられたもの。写真は国交樹立を報じる「人民日報」を求める人々。

WWP

▲女子高生がヒマラヤ登頂(12月31日) 東京の立川女子高校山岳部のメンバーが、ヒマラヤのゴーキョ・ピーク(5360メートル)の登頂に成功した。パーティーは教員4人、OB4人、在校生9人で、日本の女子高校生としては初めての快挙。

立川女子高校山岳部

読売新聞社

▲年賀状、滞貨の山(12月) 長期にわたる全逓の反マル生闘争は、年賀状取り扱い拒否を実施。27日の調停も不調で、年賀状22億5000万通のうち、4億通が元日に配達できなかった。全逓の「組合活動の参加者は、人事面で差別を受ける」が闘争の発端。

▼浩宮、テレビに出演(12月31日) TBSの音楽番組「オーケストラがやってきた」に、学習院大音楽部員として参加した浩宮を、司会の島田祐子がインタビュー(写真)。宮内庁は「前例がない」と待ったをかけたが、予定どおり放送された。

共同通信社

昭和53年12月

1(金)●道交法改正。酒酔い運転が即時免停になる。

2(土)●東北自動車道の築館—一関間が開通し、埼玉県岩槻—岩手県盛岡南間四九四・六キロが完成。

3(日)●早大の瀬古利彦、福岡国際マラソンで初優勝。

4(月)●筑波大生一四一人が茨城県議選で一人三〇〇〇円で買収され集団不在投票と判明。

5(火)●後藤武蔵野市長、乱開発防止のためのマンションへの給水拒否により起訴される。
●日米農産物交渉妥結。牛肉などの輸入拡大。

6(水)●「完全駆除」後三〇年で頭ジラミ復活と新聞に。

7(木)●エルサルバドルの反政府ゲリラ、合弁会社インシンカの日本人重役誘拐(54年3月解放)。

8(金)●大平首相、国際通貨基金が日本の貿易黒字解消のため求めている七%成長は不可能と言明。

9(土)●東京・杉並で区民総背番号制導入反対のデモ。

10(日)●沖縄県知事選で初の保守候補・西銘順治当選。

11(月)●運転代行業が流行、一〇〇社超えると新聞に。

12(火)●町村議会の八一%が定数削減と議長会調査。

13(水)●都教委、教師のアルバイト自粛を呼びかける。

14(木)●大規模地震対策特別措置法、施行。

15(金)●米中両国、国交正常化を同時発表。

16(土)●宇宙旅行協会が「スペースシャトル友の会」を発足させ説明会開催。三三一人が予約。

17(日)●朝日新聞社、昭和五年以来続いた健康優良児表彰を打ち切ると発表。

18(月)●首相官邸に侵入し大平首相襲撃の右翼逮捕。

19(火)●茅ケ崎市医師会、無休診療の徳洲会進出に抗議、予防接種や休日当番医の業務拒否と通告。

20(水)●国際捕鯨委、北太平洋捕鯨枠四一%減で合意。

21(木)●群馬県、県庁屋上の風力発電機で発電開始。
●石油備蓄タンカー第一船、長崎県橘湾に錨泊。

22(金)●江川問題で巨人提訴却下した金子コミッショナー、一転して阪神・巨人間トレードを要請。

23(土)●日中経済協力の上海・宝山鉄鋼所が起工式。

24(日)●日本製玩具モンチッチが西独で大人気と外電。

25(月)●米から初の商業用プルトニウム燃料が神戸着。

26(火)●イランで最大規模の反王制デモ起こり内戦状態に突入(28日石油生産が全面停止に)。

27(水)●韓国政府、金大中を二年一〇カ月ぶりに釈放。

28(木)●俳優の田宮二郎、自宅で散弾銃により自殺。

29(金)●名護市で米軍が演習場周辺民家に銃弾を撃ちこむ(翌年1月4日までに三三発)。

30(土)●首都高速の通行車両が開業以来二〇億台突破。

31(日)●ピンク・レディー「UFO」にレコード大賞。

微楽多市（がらくたいち）

流行語 リストラ時代の先ぶれ

「窓際族」。高度成長の時代に大量の社員を雇い入れた各企業は、オイル・ショック後の不況により過剰人員の処理に悩むことになった。希望退職、出向などの人減らしも間に合わず、出勤しても仕事がないという〝社内失業者〟が続出、彼らの机は会社の窓際に置かれるという意味で、こう呼ばれた。サラリーマンにとって〝気楽な稼業〟時代の終焉を示す言葉。

「みじめ、みじめ」。小松政夫がテレビ番組の中で〝しらけ鳥、飛んでゆく、南の空へ、みじめ、みじめ〟と歌う「しらけ鳥音頭」が子どもたちに大ヒット。母親に叱られた時など「みじめ、みじめ」と茶化してしまうことがはやった。

「ちょっといい話」。作家の戸板康二が芸人などのエピソードをまとめた本のタイトル。ほほえましく、奇想天外な話の数々が、ぎすぎすした時代の清涼剤として歓迎され、タイトルもさまざまな形に応用されて使われた。

「キャリア・ウーマン」。OLの中でも専門職などを持つ女性のこと。和製英語ではなく、ちゃんとした英語で、この年から日本で使われ始めた。

CM100年

新聞CM「ひとりよりふたり。」（丸井）

▲客層をニューファミリーからさらに広げようとしたキャンペーン。

レジャー 復活した江戸の伝統「隅田川花火大会」

八代将軍・吉宗の頃からの伝統を誇る両国の花火が、七月二九日「隅田川花火大会」と名を変えて復活した。昭和三六年を最後に、交通量の増加や人家の密集、川の汚染などの理由で中止されていたのである。復活といっても仕掛花火は禁止、打ち上げも三寸玉（直径が三寸のもの。大きいのは直径四尺にもおよぶ）どまりと制約は多かったが、これをきっかけに東京では花火大会が大いにさかんになった。（日本煙火協会「花火のしおり」）

流行 関西で人気、予約が殺到 お地蔵さんのレンタル

〔大阪発〕京都や大阪でお地蔵さんのレンタルが大受け、予約が殺到している。京都の壬生寺には近郊の開発によって地中から発掘された地蔵一三〇〇体が奉納されている。そのうち三〇〇体を、一体二〇〇〇円でレンタル中。

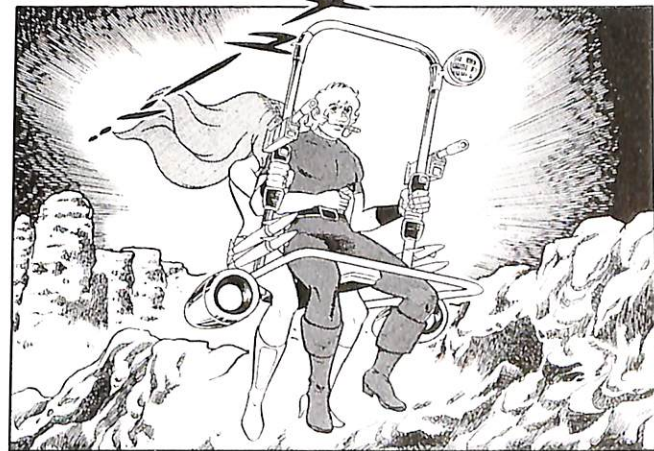
大阪は近鉄百貨店が始めたもので、石材店に作らせたお地蔵さん（高さ約三〇～四〇㌢）を一体五〇〇〇円からという料金で貸し出している。客は新興住宅地の住民で、庭の飾りにしたいというケースがほとんど。（「週刊大衆」一一月三〇日号）

共同通信社

▶一一月三〇日、登山歴八年の青年が、新宿住友ビルの外壁二〇八㍍を三〇分で登りきった。

社会 〝口裂け女〟以前に〝口裂け男〟がいた

岐阜県で〝口裂け女〟のデマが勃発したのは五三年一二月。たちまち全国を駆けめぐり、子どもたちを恐怖のどん底におとしいれた。ところがその半年前、関西のある女子短大の寮で〝口裂け男〟が出現していたことがわかった。

野田正彰氏（精神科医）らの報告によると、〝事件〟発生は六月一〇日深夜で、二人の一回生が「キエー！」という絶叫とともに突然発作を起こし、悲鳴は一〇分おきに三時間続いた。仲間は水をかけ、頬をひっぱたいたが正気に戻らず、窮余の一策で塩をまいたら硬直した下肢がようやくゆるんだ。翌日の昼、野田氏らが寮生三〇人と対話したところ、全員が「口の大きい男の化け物」におびえていることがわかり、そのうちの何人かはハトの羽音を引き金に、前夜の二人と同じような発作を次々に起こしたという。（「季刊・人類学」五四年四号）

▲寺沢武一が「コブラ」第1作を、「少年ジャンプ」増刊号に発表。主人公コブラは、左手に隠し持つサイコ・ガンで悪に立ち向かう。

データ クマからライオンまで 猛獣ペット実態調査

全国には猛獣をペットにしている人が少なくない。警察庁が一〇月に実態調査を行った。上位一〇位は次のとおり。①クマ 九六八頭、②ワニ 一六九頭、③ニシキヘビ 八七匹、④ライオン 六五頭、⑤チンパンジー 四〇頭、⑥トラ 二二頭、⑦ヒョウ 二〇頭、⑧ピューマ 一三頭、⑨ジャガー 一一頭、⑩ヒヒ 一〇頭（警察庁「猛獣実態調査」）

はやり歌

いい日旅立ち

作詞 作曲 谷村新司

雪解け間近の北の空に向かい
過ぎ去りし日々の夢を叫ぶ時
帰らぬ人たち熱い胸をよぎる
せめて今日から一人きり旅に出る
ああ日本のどこかに
私を待ってる人がいる
いい日旅立ち 夕焼けをさがしに
母の背中で聞いた歌を道連れに

岬のはずれに少年は魚つり
青い芒の小径を帰るのか
私は今から想い出を創るため
砂に枯木で書くつもり〝さよなら〟と
ああ日本のどこかに
私を待ってる人がいる
いい日旅立ち 羊雲をさがしに
父が教えてくれた歌を道連れに
ああ日本のどこかに
私を待ってる人がいる
いい日旅立ち 幸福をさがしに
子供の頃に歌った歌を道連れに

ソニー・ミュージックエンタテインメント提供

▲国鉄（現・JR各社）のキャンペーン・ソング。山口百恵が歌って大ヒット。

与作

作詞 作曲 七沢公典 編曲 池多孝春

与作は 木をきる
ヘイヘイホー ヘイヘイホー
こだまは かえるよ
ヘイヘイホー ヘイヘイホー
女房は はたを織る
トントントン トントントン
気だてのいい嫁だよ
トントントン トントントン
与作 与作
もう日が暮れる
与作 与作
女房が呼んでいる
ホーホー ホーホー

えとせとらレコード博物館提供

▲NHKテレビ「あなたのメロディー」で北島三郎が歌い、評判となってレコーディング。

三面記事 美容整形は〝幸福の医学〟

それまで〝日陰の医学〟と言われていた美容整形が、医療として認められたのは五三年一〇月だった。医療法が改定され、呼吸器外科、矯正歯科などとともに医療の一科目として法的に承認されたのである。もちろん美容整形医は大喜び、新橋・十仁病院の梅沢文彦副院長は「これからは〝日陰の医学〟ではなく〝幸福の医学〟だ」と胸をはった。ところで美容整形の値段は二重マブタが一〇万円、隆鼻術一五万円、豊胸術が三〇万～五〇万円といったところが相場。客の傾向として就職を控えた大学生や、国会や県議会選挙に出ようというセンセイ方がふえた。ともに一重マブタを二重にして人の印象やテレビ映りをよくしようというわけである。（「微笑」五四年一月一三日号）

日本けん玉協会蔵

▲競技用「16型けん玉」。この年5月21日開催の、日本けん玉協会杯争奪戦で公認のもの。

ウラ文化 発禁に次ぐ発禁 反骨出版人の死

艶本出版ひと筋に六〇年、「国貞」の裁判では最高裁まで争い、反骨の出版人といわれた坂本篤氏（七六）が亡くなった。山梨の名家の出身で、祖父は「山梨日日新聞」の前身、「峡中新聞」の創始者。ところが父親が家財を蕩尽、一六歳の坂本少年は上京して本屋の小僧になった。数年後、独立して最初に出版したのが『末摘花』で、さっそく発禁。以来、発禁に次ぐ発禁で、その一生は官憲との闘いの連続だった。SM画家・伊藤晴雨の縛り絵や写真を初めて世に出したのも坂本氏で、もちろん発禁。一方、宮様や著名な文化人の中には坂本ファンが多く、戦前、東久邇宮、閑院宮、梨本宮家などへの出入りはフリーパスだった。（「週刊新潮」一二月五日号）

◀二月一四日、鳥羽水族館のジュゴンが人工飼育の世界最長記録を作った。

鳥羽水族館提供

泥棒 図々しさに徹した 大阪の遊技機窃盗団

〔大阪発〕「こんな図々しい泥棒は初めて」と刑事があきれ返った一一人組が大阪・堺北署に捕まった。このグループ、まず小型バスを盗んでサイレンや赤い点滅灯、警察の無線が傍受できる無線機などを設置して、〝覆面パト〟に改造。

次には二人一組になって喫茶店をまわり、トバク遊技機を見つけると、刑事をよそおっておどかし、店主がワイロを出すとすましてて受け取る。その後、「何のつもりだ」と言いながら、堂々と機械を持ち出してトラックに積みこんだ。覆面パトが活躍するのはこれからで、前の車が邪魔だと、サイレンを鳴らして「外側車線に寄りなさい」と命じていた。こうして遊技機三〇〇台をはじめ、一〇〇〇万円以上の盗みを働いていた。（「サンケイ新聞大阪版」三月一一日）

▲6月24日、鎌倉市の建長寺門前に「クリーン鎌倉」を訴えて空き缶の大仏が。

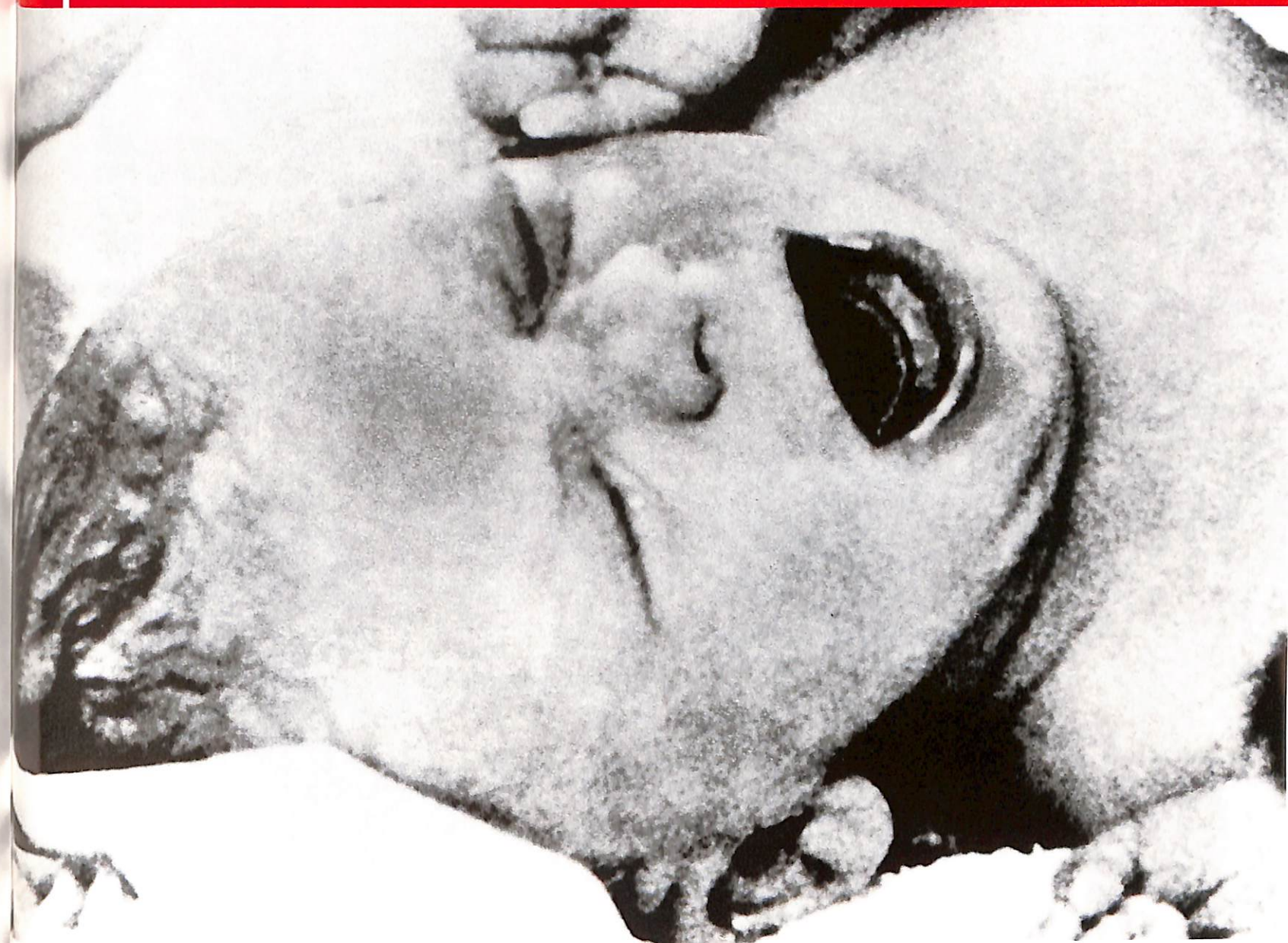
この年の初もの

本拠地は西武線所沢 西武ライオンズ誕生

●キリスト教喫茶 その名も「ジーザス・ハウス」と言い、長野市に登場。店内には聖書やキリスト教関係の本がズラリ。「コーヒー飲みつつ神の福音を」とマスター。

●葬式のテレビCM 業界大手の「くらしの友社」が始める。タレントは林家三平。

●自転車の立体駐輪場 千葉県柏市の国鉄柏駅前に誕生。

イギリスで誕生した「試験管ベビー」第1号 ルイーズちゃんを巡る“大騒ぎ”

▲ルイーズちゃん誕生のニュースが流れると、イギリスでは子どものいない夫婦5000組が病院に殺到した。　ロイター・サン／共同通信社

昭和五三年七月二五日、イギリス中西部マンチェスター郊外の産業都市、オールダムにあるオールダム総合病院で、人類史上初の「試験管ベビー」（体外受精児）が産声をあげた。不妊女性への福音か、それとも神への冒瀆か——世界中で大論議が巻き起こった。

丸々と太りピンク色 二六〇八グラムの女の子

「私も同じような研究を進めていましたが、正直言って、時期尚早という感じを受けました。しかしノーベル賞をはるかに超える、世紀のイベントだったと思います」

こう語るのは、世界保健機構（WHO）ヒト生殖プログラム科学技術アドバイザー（元慶応大学助教授）の鈴木秋悦氏である。

世界初の体外受精児が誕生したのは昭和五三年七月二五日、午後一一時四七分（日本時間二六日午前七時四七分）のこと。八月一八日の出産予定が二四日早まり、帝王切開による人工分娩での出産であった。

その日、母親であるレスリー・ブラウンさん（三二）が分娩室で手の甲の血管から麻酔薬を注入されたのが、午後一一時三一分。そして、手押し車で手術室に運ばれ、映画撮影班のライトに照らされながら手術台の上に載せられて、腹部にメスが入れられたのが一一時四一分。手術は大成功をおさめ、無事女の子が誕生した。

「彼女は、丸々と太っていて、筋肉の張りもよかった。深く息を吸いこんだかと思うと、“おぎゃあ”と泣き、全身ピンク色でとても元気だ。少なくとも外観は完全で文句なしの状態だった」（担当医パトリック・ステプトー博士の証言）

生まれた女の子の体重は五ポンド一二オンス（二六〇八グラム）で、ルイーズと命名された。

「試験管ベビー」は世界中に大きな波紋を投げかけた。「不妊に悩む多くの女性たちにとってこれ以上の福音はない」「これは原爆の発明に次ぐ罪深い発明だ」と論議は真っ二つ。反対派の急先鋒はカトリック教会を筆頭とする宗教関係者で、早くも翌日、バチカン当局は、「自然の摂理に反する根源的悪」との声明を出した。

ルイーズちゃんをめぐる大騒ぎはこれにとどまらなかった。「デーリー・メール」紙を発行しているアソシエーテッド・ニューズペーパー社が、一億二〇〇〇万円も支払って、写真を含めた報道する権利を両親から買い取ってしまったからだ。そのため、ルイーズちゃんは“ミリオネア・ベビー”（百万長者っ子）という異名までつけられるありさまで、世界中の報道機関は完全にシャットアウトされてしまった。

ロイター・サンテレフォト

▲担当医は、取材攻勢から赤ちゃんを守り今後の養育に備えるため、報道を1社に限るよう提言。

このルイーズちゃんが、テレビ番組に出演するため初めて海外旅行した先はなんと日本。翌五四年三月一〇日、生後七ヵ月半のことで、体重九・三キロ、身長六九センチと標準以上の発育ぶりだった。

胎盤への着床から八ヵ月と一五日目

「試験管ベビー」の両親は、イギリス南西部のブリストルに住む鉄道員のギルバート・ブラウンさん（三八）とその妻・レスリーさん、結婚して九年目のことであった。ギルバートさんは再婚、先妻との間に一六歳の娘がいたが、レスリーさんは、やはり自分のお腹を痛めた子どもがほしかった。しかし卵管に異常があり妊娠できず、藁をもつかむ思いで訪れた

▲ルイーズちゃんを抱くエドワーズ博士。右はステプトー博士、間の女性は助産婦。　WWP

外から見たNIPPON

M・フーコーが禅院で見た“謎としての日本”

——佐伯 修

フランスの哲学者ミッシェル・フーコー（一九二六～八四）は、この年の四月、フランス政府の文化使節として来日した。昭和四五年の初来日以来、二度目である。

この八年間に、フランスでも日本でも、社会状況は大いに変化し、思想的にも六〇年代後半の学生運動の中で高まりを見せた新左翼の波は、もはや退きつつあった。そんな中で、マルクス主義と構造主義という二つの思想の延長線上に、彼が行ってきた、西欧の作り出した「近代的合理性」の本質をさぐり、その限界を乗り越える作業は、日本でも注目をあびた。『言葉と物』『狂気の歴史』『監獄の誕生』など、彼の主著の翻訳が相次いで出版され、その長さや難解さにもかかわらず、広く読まれた。

さて、この年の来日では、フーコーは二〇日間の滞在中に、東大教養学部や朝日講堂などで講演を行ったほか、丸山真男、吉本隆明、渡辺守章ら、同時代の日本の著名な知識人による、インタビューや対談に応じ、テレビにも出演するなどしている。

そんな滞在中のスケジュールの中で、フーコーは、四月二三日から三日間、山梨県上野原にある禅宗の寺、青苔寺の国際禅道場で参禅を体験した。

WWP

▲近代批判を展開したM・フーコー。

フーコーの参禅の動機は「私たち西洋のものとは全く違うタイプの一つの精神性」を形づくるであろう「禅堂の生活それ自体」に触れるためだった。そんな彼の、修行僧との一問一答が、フランス大使館員のクリスチャン・ポラックによって再現されている。フーコーは、みずからの日本への関心について、前回の来日の際に、日本を「何も見なかったし、何も理解しなかった」と「後悔」し、「日本に対する関心というのは、正直なところ恒常的なものではありません」と、率直に断ったうえで、次のように述べている。

「私に興味があるのは、西欧の合理性の歴史とその限界ですが、その点で日本は、明らかに、避けて通ることのできない問題であり、一つのサンプルであると思います。というのも、日本は解くことがもっとも難しい謎の一つであるからです」（『春秋』一九七八年通巻一九七号）

それは「日本が西欧の合理性に対立する何ものか」だからではない、と彼は言う。世界の「他の至るところで西欧の合理主義が植民地を建設している」にもかかわらず、日本は逆に、西欧の合理主義をみずからの植民地のようにしてしまい、利用しつくしてしまった、とフーコーは指摘しているのである。

のが、オールダム総合病院の産婦人科医パトリック・ステプトー博士とケンブリッジ大学生理学講師のロバート・エドワーズ博士のもとであった。

二人は、一〇年も前から共同で「試験管ベビー」の実験を繰り返し、受精卵の培養には成功したが、胎盤への着床後いずれも妊娠数ヵ月で流産してしまう結果を招いていた。両博士がブラウン夫妻の熱意を受け入れ、レスリーさんの卵子を採取する手術が行われたのが昭和五二年一一月一〇日。四八時間後、ギルバートさんの精子が培養液中の卵子に注がれた。そしてシャーレの中で二日間細胞分裂を続けた受精卵はスポイト状の器具で吸い上げられ、レスリーさんの子宮内に戻された。この日から八ヵ月と一五日後、レスリーさんはルイーズちゃんを無事出産したのである。

これを契機に世界中で「試験管ベビー」が続々誕生。日本で初の体外受精児が誕生したのは、五年後の昭和五八年一〇月一四日、東北大学医学部付属病院でのことであった。以後六〇年には二七人、平成二年は一〇四八人、そして平成五年が三五五四人と、年々体外受精児の数はふえ続け、平成六年までに一万四一二九人が日本国内で生まれているが、受精卵の移植回数に対する出生児の数は約五パーセントとまだ低い。

先の鈴木秋悦氏によると、当のエドワーズ博士は、今年五月、カナダのバンクーバーで開かれた世界体外受精学会で、「基礎的な研究をないがしろにしたまま、医療側がお金儲けに走っているのでは」と危惧していたという。

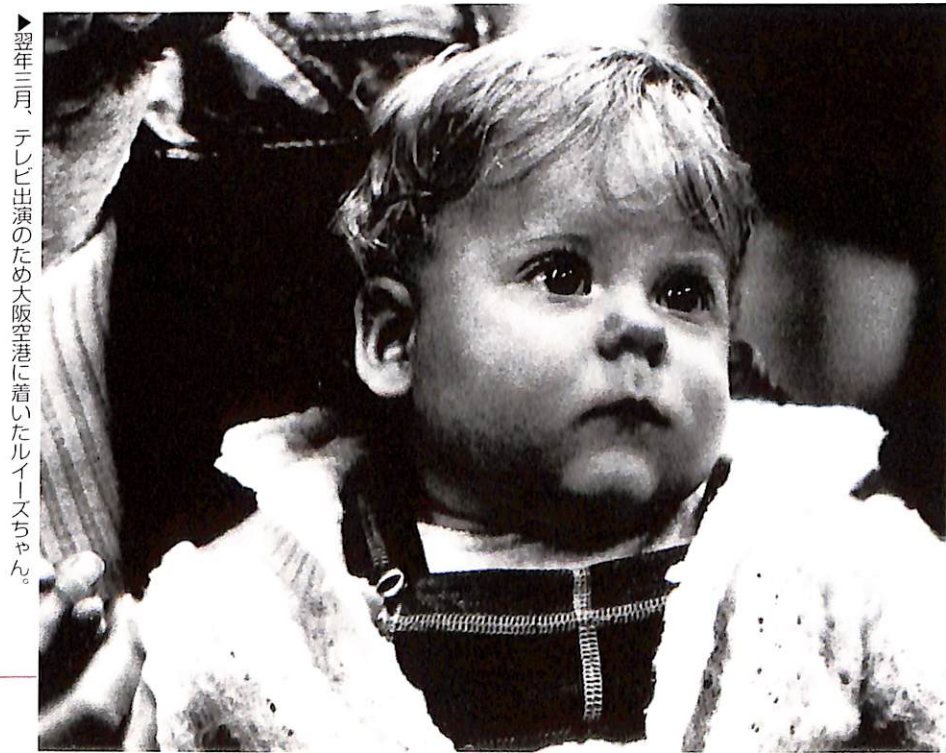
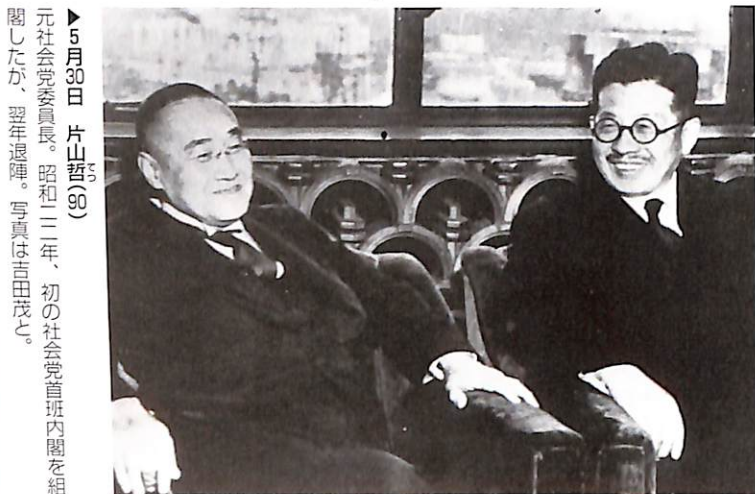
また、北海道医療大学助教授の柘植あづみさんは「体外受精の負の情報が不十分。加えて不妊の夫婦は世間の無理解や身体の欠損感に悩む面も大きい。技術開発だけでなく、心理的ケアも必要です」と語っている。

▶翌年三月、テレビ出演のため大阪空港に着いたルイーズちゃん。

共同通信社

往きて還らぬ

▲7月25日　古賀政男（73）
作曲家。処女作「影を慕いて」をはじめ約4000曲の“古賀メロディー”を残した。没後、国民栄誉賞受賞。

▲5月1日　A・ハチャトゥリヤン（74）
ソ連の作曲家。出身地アルメニアの民謡を作品に取り入れ、1942年バレー曲「ガヤーネ」で名声を確立した。

▲3月1日　岡潔（76）
世界的な数学者で、昭和26年「多変数解析函数論」で学士院賞受賞。35年文化勲章受章。随筆に『春宵十話』など。

▶5月30日　片山哲（90）
元社会党委員長。昭和二二年、初の社会党首班内閣を組閣したが、翌年退陣。写真は吉田茂と。

▲3月16日　山手樹一郎（79）
小説家。昭和14年「桃太郎侍」で人気作家に。明朗な時代小説の書き手として、貸本屋ではトップの人気だった。

▲1月5日　浜田庄司（83）
陶芸家。釉薬を使い独自の手法を創案。柳宗悦らと民芸運動を展開した。昭和30年に人間国宝、43年文化勲章受章。

時事通信社

▲1月14日　花森安治（66）
ジャーナリスト。戦前は大政翼賛会に属し、昭和23年「暮しの手帖」を創刊、婦人雑誌に新しい形式を生み出した。

▲7月27日　石田礼助（92）
実業家。昭和14年三井物産代表取締役に就任。戦後は国鉄総裁をつとめ、その際、公職は奉仕であると、報酬を返上。

▲6月30日　柴田錬三郎（61）
小説家。昭和31年、週刊誌に「眠狂四郎無頼控」を連載、“眠狂四郎”ブームを生んだ。ほかに『柴錬三国志』など。

▲4月25日　東郷青児（80）
画家。大正5年二科展に初入選。幻想的な女性像を描き、フランス文学の翻訳も手がけた。没後、文化功労者。

▼1月30日　ダミア（85）
フランスのシャンソン歌手。庶民の悲哀を“語る”ように歌い、人気を集めた。1953年来日、ヒット曲「暗い日曜日」。

▲9月30日　山岡荘八（71）
小説家。昭和8年雑誌「大衆倶楽部」創刊。時代小説を得意とし、戦後『徳川家康』が大ベストセラーとなった。

▲7月24日　杉野芳子（86）
洋裁教育の草分けで、大正15年ドレスメーカー女学院を創設。ドレメ式型紙を創案、洋裁教科書も多数執筆。

既刊34冊! 1940年代と1960年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第35号 10月21日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1979［昭和54年］

●特集
ゲーム王国・日本の幕を開けた「インベーダー」大ブーム!／〝ニッポン本ブーム〟と日米関係 『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の中身／一億六〇〇〇万台の世界的超ヒット! 「ウォークマン」開発物語／ホメイニ師の帰国で爆発したイラン革命とイスラム・パワー

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…猟銃男、三菱銀行北畠支店に籠城(1月26日)／米スリーマイル島で原発事故(3月28日)／東京サミット開催(6月28日)／東名高速日本坂トンネル火災(7月11日)／甲子園の「ドカベン」大活躍(8月15日)／韓国の朴大統領暗殺(10月26日)／初の東京国際女子マラソン(11月18日)

●人物クローズアップ
武田鉄矢、「金八先生」で人気沸騰

●決定的瞬間
木星の衛星イオに活火山!

●美の出会い
篠山紀信「激写」大ブーム

●女たちの肖像…デザイナー・石岡瑛子

の「檄」／勝者・敗者…長谷川恒男、「三冠」達成!／証言・あの日この日…秋山さと子、村松友視／20世紀博物館…四万十とんぼ自然館(高知)／「現場」を歩く…君津、〝虎騒動〟の神野寺／外から見たNIPPON…「霧社事件」と山地人ピホワリス

●ベストセラー…吉行淳之介『夕暮まで』／スターと名場面…「復讐するは我にあり」／モノ語り'79…「パソコン」登場!

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959[昭和34年] 第2号1964[昭和39年] 第3号1945[昭和20年] 第4号1970[昭和45年] 第5号1963[昭和38年] 第6号1958[昭和33年] 第7号1972[昭和47年] 第8号1980[昭和55年] 第9号1976[昭和51年] 第10号1989[平成元年]

第11号1960[昭和35年] 第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年] 第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年]

第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年] 第28号1923[大正12年] 第29号1971[昭和46年] 第30号1973[昭和48年]

第31号1974[昭和49年] 第32号1975[昭和50年] 第33号1977[昭和52年] 第36号1951[昭和26年] 第37号1952[昭和27年]

■今後の刊行予定

▶第38号1953[昭和28年]11月11日発売
〝テレビと力道山〟時代●軍事基地・沖縄の苦悩●伊東絹子と「八頭身」ブーム●エベレスト初登頂

▶第39号1954[昭和29年]11月18日発売
ゴジラと「第五福竜丸」事件●「洞爺丸」沈没●自衛隊発足●「ローマの休日」とヘプバーン人気

▶第40号1955[昭和30年]11月25日発売
「三種の神器」で家電時代到来●「春闘」スタート●広がるヒロポン禍●ジェームス・ディーン、激突死

▶第41号1956[昭和31年]12月2日発売
「太陽の季節」に芥川賞●憧れの2DK! 〝団地族〟誕生●週刊誌時代到来●スターリン批判の衝撃

▶第42号1957[昭和32年]12月9日発売
石原裕次郎、人気爆発! ●南極観測隊、昭和基地建設●代々木ゼミ開校●黒人差別とリトルロック事件

▶第43号1931[昭和6年]12月16日発売
浅草の喜劇王・エノケン●黄金バットとのらくろ●満州事変と石原莞爾●エンパイアステートビル完成

▶第44号1932[昭和7年]12月22日発売
「満州国」建国●五・一五事件●大森ギャング事件とスパイM●「ターザン」とワイズミュラー人気

▶第45号1933[昭和8年]平成10年1月6日発売
皇太子明仁親王誕生●三陸大津波の恐怖●特高、小林多喜二を虐殺●日本、ついに国際連盟脱退へ

▶第46号1934[昭和9年]1月13日発売
室戸台風の猛威●驚愕の贋作浮世絵「春峰庵事件」●大日本東京野球倶楽部設立●中国紅軍、長征開始

▶第47号1935[昭和10年]1月20日発売
大本教に大弾圧●第四艦隊事件●作られた美談「忠犬ハチ公」●スイング全盛とベニー・グッドマン

▶第48号1936[昭和11年]1月27日発売
日本を震撼させた二・二六事件●ベルリン五輪の〝明暗〟●西安事件●エドワード8世「王冠をすてた恋」

▶第49号1937[昭和12年]2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」起工●南京虐殺事件●女性飛行家イヤハート遭難の謎

▶第50号1938[昭和13年]2月10日発売
幻の東京五輪●代用品時代始まる●笑いの慰問団「わらわし隊」●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境

▶第51号1939[昭和14年]2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発

▶第52号1940[昭和15年]2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●日独伊三国同盟締結●強まる統制〝配給〟に〝回覧板〟●〝海の狼〟Uボート

▶第53号1981[昭和56年]3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●『窓ぎわのトットちゃん』刊行●第2次臨調スタート

▶第54号1982[昭和57年]3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●新日鐵で高炉休止続く●日米コンピュータ戦争●フォークランド紛争

▶第55号1983[昭和58年]3月17日発売
東京ディズニーランド、オープン●「おしん」大ブーム●激化する校内暴力●大韓航空機撃墜事件の謎

ミニ事典
1978年のキーワード

北陸スモン裁判
全国三二地裁で起こされたスモン訴訟のひとつ。三月一日、金沢地裁はスモンの原因とされた整腸薬キノホルムを発売した日本チバガイギーなどと、これを認可した国の責任を初めて認め、被告に賠償金の支払いを命じた。しかし、薬害説に立ちながらもウイルス説も否定できないとしたため、患者側が反発、原告・被告双方が上告。昭和五七年、やっと全面和解にこぎつけた。

共同通信社
▲3月1日、金沢地裁の北陸スモン訴訟判決で、主張をほぼ認められた原告団(16人)。

『婦人白書』
「婦人の現状と施策」が正式名。一月一〇日、総理府が初めて発表した。一九七五年の「国際婦人年」を契機に、女性差別撤廃の動きが強まる中で生まれた。『白書』では女子の賃金は男子の約半分、「男は仕事、女は家庭」という分担は強固、政治・経済分野への進出は停滞、と指摘した。

弁護人抜き裁判
裁判の迅速化のため、弁護人なしで行う裁判。過激派の裁判遅延が目立ったことから問題になった。一定の重い事件では刑事訴訟法の規定に抵触するため、法制審議会が一月二三日、例外規定でその実施を可能とする刑訴法改正要綱案を瀬戸山法相に答申。日本弁護士連合会などが暗黒裁判に道を開くと強く反対した。

「二階の息子、離れの娘」
同じ家に住みながらお互いが何をしているかわからない、というこの頃の親子関係を象徴した表現。滋賀県の中学生の家で二月一二日、ふだんいじめられていた二人が、一緒に雑魚寝していた同級生ら四人を包丁や木刀で襲い、一人死亡、自分たちを含む四人が重軽傷を負う事件があったが、親たちは何が起こったのか知らなかった。これを評して教師たちが使った言葉が一般に流布した。

入浜権問題
海浜や海岸は、誰もが自由に利用できる権利(入浜権)を持つもので、特定の企業が囲ったり、埋め立てたりするのは人権侵害とする考え。昭和四八年来、環境権のひとつとして、その確立のために住民運動が展開されてきたが、五月二九日、愛媛県長浜町の沖浦漁港建設差し止め請求訴訟で、松山地裁は「海岸は国が利用を許可しており、住民の海岸利用は権利ではない」と入浜権を否定する初の司法判断を示した。

◀入浜権運動を推進する全国連絡会議の機関紙が、三月二〇日創刊された。

地名を守る会
行政が推進する住居表示の変更で、歴史的・文化的財産である地名や町名がなくなるのを防ごうとする会。代表者は民俗学者の谷川健一。三月一一日、地名を守る運動を行っている住民団体代表や地名研究者ら約六〇人が、東京で設立総会、昭和三七年施行の「住居表示に関する法律」の無効を求める宣言を採択した。

日本アカデミー賞
日本の映画製作者らが選出する映画年度賞。米アカデミー賞にならい、電通などが主体になって創設。四月六日、東京の帝国劇場で第一回授賞式が行われ、「幸福の黄色いハンカチ」が最優秀作品賞のほか監督賞・山田洋次、主演男優賞・高倉健など賞を獲得、主演女優賞には「はなれ瞽女おりん」の岩下志麻が選ばれた。

キャンプ・デービッド合意
カーター米大統領の提唱で九月五日から大統領の山荘、メリーランド州キャンプ・デービッドで、エジプトのサダト、イスラエルのベギンの両首脳が中東和平実現のために会談、一七日合意・調印した。この合意に基づき、翌年、両国間で平和条約が締結され、イスラエル軍のシナイ半島撤退の実現と、パレスチナ問題の具体的解決への方途が示された。

WWP
▶九月一七日、調印後の記者会見。左からサダト、カーター、ベギンの三首脳。

大規模地震対策特別措置法
大地震から国民の生命や財産を守ることを目的とした法律。マグニチュード八程度の大地震の発生と、それによる大被害が予想される地域を、地震防災対策強化地域に指定、地震予知観測の強化、地震防災計画の立案などを促進する。六月一五日公布、一二月一四日施行。東海地震に対して適用され、静岡県全域、神奈川県西部などが強化地域に指定された。

有事研究
戦争や事変など国家にとっての緊急事態の際の防衛研究。特定地域の侵攻の想定まで含む。防衛庁が六月二一日、この年八月から着手すると発表。昭和三八年に「三矢研究」が問題になって以来五年ぶり、七月には栗栖統幕議長が有事での自衛隊の「超法規的行動」を認める発言を行うなど、この年防衛論議のタブーが一気に破られ、福田首相も有事立法と、防衛研究などの検討を指示した。

音声多重放送
テレビのステレオ放送、二ヵ国語放送などテレビ電波のすき間を利用して行う音声の二チャンネル方式。九月二二日、民放テレビ六社とNHKが実用化に向けて予備免許を獲得、二八日、日本テレビが午前一〇時からの「ミセス&ミセス」の中で初めて日英二ヵ国語放送を実施した。

日米半導体戦争
日米両国間の半導体をめぐる競争。この年、米国内で日本の半導体業界は、ダンピングなどの不正手段で競争に勝とうとしているという報道が相次いだ。一一月一四日、メーカー八社の訪米使節団は米業界代表と半導体ゼミナールを開催、その対策を練った。しかし、米政府はパソコンに一〇〇パーセントの関税をかけるなど、厳しい対日制裁措置を講じたため、競争は次第に激化した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1978

CONTENTS

●編集
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正
●写真協力
稲越功一 奥村健太郎 乙咩雅一 ジャーニー・ジャンサンティ フランク・ジョンストン 寺沢武一 三浦憲治 吉田忠正
朝日新聞社 オリオンプレス 共同通信社 サンテレフォト 時事通信社 集英社 西日本新聞社 日刊スポーツ PPS 文藝春秋 報知新聞 毎日新聞社 読売新聞社 ロイター WWP
松竹 ソニー・ミュージックエンタテインメント 第一興商 東宝 矢沢クラブ
えとせとらレコード博物館 立川女子高校山岳部 鳥羽水族館 日本けん玉協会

雑誌 23704 10/28
Ⓛ 2001/1/1
T1123704100568

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社